青年招へい事業

アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国、サウディ・アラビア

［交流レポート］

JICA LIBRARY
J 1157309 (4)

1999

国際協力事業団

JICA
000
36
DPT
LIBRARY

国内研
J R
00-05

信頼と友情への第一歩

平成11年度青年招へい事業(アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国、サウディ・アラビア)

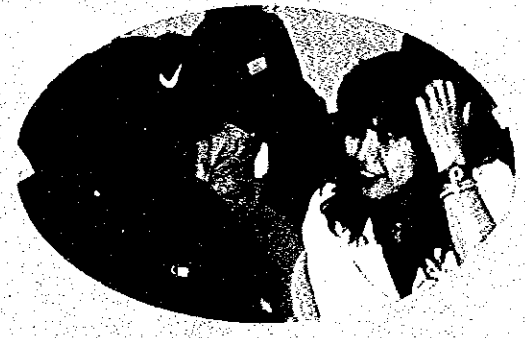
開講式

国際事業団より歓迎のあいさつ

あいさつに耳を傾ける青年たち

いよいよプログラムがスタート

共通プログラム



「はじめまして。お名前は」(体験的日本語学習)

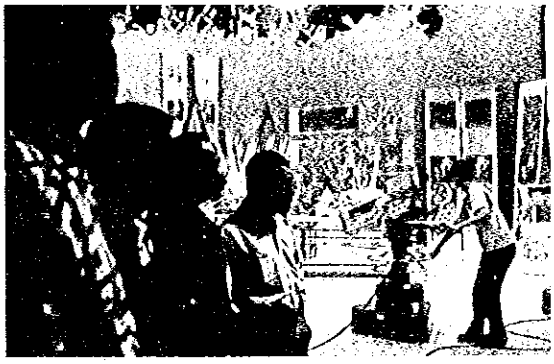
なぎなたを初体験(武道鑑賞)

体を使って日本語を覚えましょう(日本語学習)

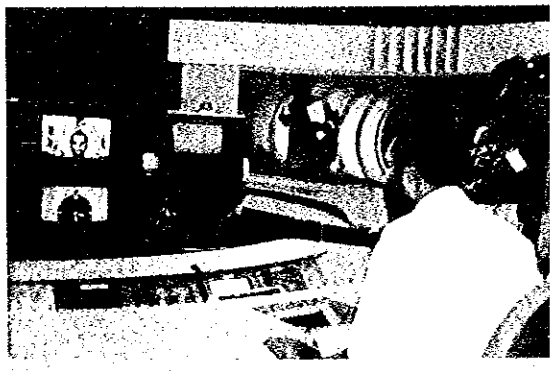
分野別都内プログラム

講師の言うことは真剣に聞きます

日本の下水道設備の見学



テレビ番組作りに興味津々



気分はすっかりキャスター?

合宿セミナー

ディスカッションも活発に

初めて着る"はっぴ"です

2泊3日が短く感じました

夜遅くまで大いに盛り上がろう

みんなでピース(ボウリング大会)

分野別地方プログラム

子どもは世界共通の未来への宝物

国を代表してスピーチ

民族のリズムを奏でましょう

うまく書けるかな

ホームステイ

新しく娘ができました

着物、似合いますか

最後の食事にならないよう、また会いたいね

見学旅行

京都の寺院を見学

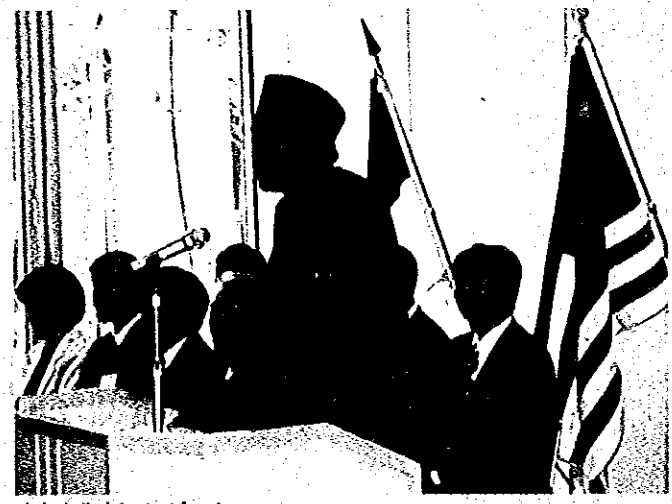
広島平和公園にて、平和への誓い

閉講式・歓送会

あー、終わってしまうんだな

国際協力事業団より参加証の授与

歓送会も賑やかに、乾杯!



青年を代表してスピーチ

青年招へい事業

1157309(4)

はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に約１カ月間招へいし、それぞれの専門分野について学ぶとともに、ホームステイ受入家族などとの幅広い交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

招へい国は当初アセアン６カ国のみでしたが、現在は120カ国以上にまで拡大し、昭和59年度に事業を開始して以来、16年間で日本を訪問した青年は19,849名に達しました。これはひとえに、関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援によるものと、心からお礼申し上げます。

本報告書は、招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が本事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。なお、本報告書は今年度の全招へい青年および各国の関係者にも送付させていただく予定です。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねてお礼申し上げますとともに、「青年招へい事業」がさらに有意義なプログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成12年３月

国際協力事業団
国 内 事 業 部
部長　今津　武

目　　次

はじめに

1．青年招へい事業―アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国、サウディ・アラビア―

1-1 概要……7

1-2 平成11年度青年招へい実績一覧……12

1-3 青年招へい事業　国別年度別受け入れ実績……14

2．招へい青年の印象

アジア

カンボディア……17

インドネシア……18

ラオス……21

マレイシア……22

ミャンマー……25

フィリピン……25

タイ……28

ヴィエトナム……31

バングラデシュ……34

ブータン……34

インド……35

モルディヴ……35

ネパール……36

パキスタン……37

スリ・ランカ……38

モンゴル……38

タジキスタン……39

太平洋諸国・地域

パプア・ニューギニア……39

フィジー……40

パラオ……41

ソロモン諸島……42

アフリカ

ブルキナ・ファソ……43

コートジボアール……44

エリトリア……45

セイシェル……46

ザンビア……46

中南米

チリ……47

コスタ・リカ……47

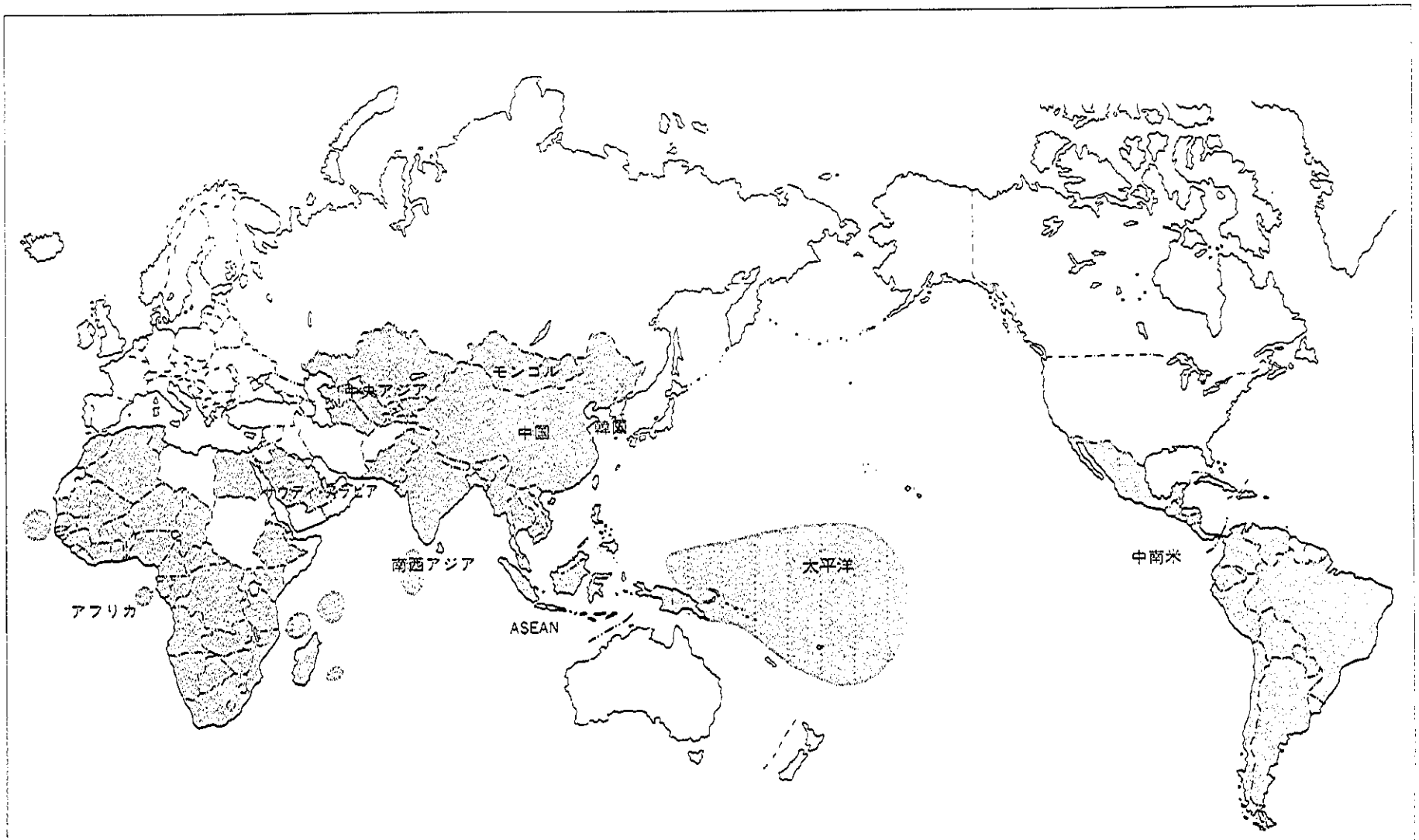
サウディ・アラビア

サウディ・アラビア……48

3．合宿セミナー参加日本青年の声……49

4．ホストファミリーの思い出……53

JICA関係機関連絡先……57



招へい対象国・地域

1. 青年招へい事業

アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国、サウディ・アラビア

1-1 概　要

(1) 事業の目的

青年招へい事業は国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、これら諸国の未来の国造りを担う青年を専門分野別に28日間わが国に招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、これらの参加青年が日本の同世代の青年との交流を通じ相互理解を深め真の友情と信頼を培うことを目的とする。

(2) 招へい事業

ア　招へい人数

平成11年度は、ASEAN8カ国より797名（インドネシア、マレイシア各149名、フィリピン、タイ各150名、ヴィエトナム115名、ラオス34名、カンボディア30名、ミャンマー20名）、パプア・ニューギニア、フィジーをはじめとする太平洋14カ国・地域より86名、インド、パキスタンをはじめとする南西アジア７カ国より99名、モンゴルより10名、アフリカ諸国49カ国より144名、中南米諸国20カ国より54名、サウディ・アラビアより20名、中央アジア５カ国より25名の合計1,235名を招へいした。

イ　招へい対象者

以下の分野の指導的立場にある18～35歳の青年。

(ア) 経済、経済経営

経済官庁公務員、経営者、投資・調査アナリスト、銀行員、公認会計士、経済専門家、エンジニア、貿易実務関係者、等

（カンボディア、インドネシア、マレイシア、フィリピン、タイ、ヴィエトナム、ASEAN混成、中央アジア諸国）

(イ) 教育、教員、理数科教員、女性教員

教員、教育行政公務員、教育指導者、司書、教育番組制作従事者、保母、大学講師、等

（インドネシア、マレイシア、ミャンマー、フィリピン、タイ、ヴィエトナム、ASEAN混成、ブータン、インド、モルディヴ、ネパール、スリ・ランカ、太平洋諸国、アフリカ諸国、中南米諸国、サウディ・アラビア）

(ウ) 行政、地方行政、公務員

中央・地方政府の行政官、職員、等

（インドネシア、マレイシア、フィリピン、タイ、パキスタン、モンゴル、太平洋諸国）

(エ) 農業

農業関係公務員、農業技術国際機関職員、農園経営者、農業団体職員、農業専攻学生、等

(インドネシア、マレイシア、フィリピン、タイ、ヴィエトナム)

(オ) 科学技術

科学技術関係公務員、科学技術研究者、コンピュータープログラマー、検査技師、土木技師、等

(ASEAN混成)

(カ) 公共・公益事業

運輸・交通行政関係公務員、等

(ASEAN混成)

(キ) 環境保全

環境行政関係公務員、都市開発従事者、景観調査員、等

(ASEAN混成)

(ク) 地域振興、地域開発

地域開発行政関係公務員、地域振興従事者、エコノミスト、等

(インドネシア、ラオス、マレイシア、フィリピン、タイ)

(ケ) 保健医療、保健衛生

医師・看護婦等医療従事者、公衆衛生関係公務員、医学専攻学生、等

(ASEAN混成、バングラデシュ、アフリカ諸国)

(コ) 社会福祉

社会福祉関係公務員、社会福祉団体職員、ソーシャルワーカー、介護士、臨床心理学士、等

(ASEAN混成、中南米諸国)

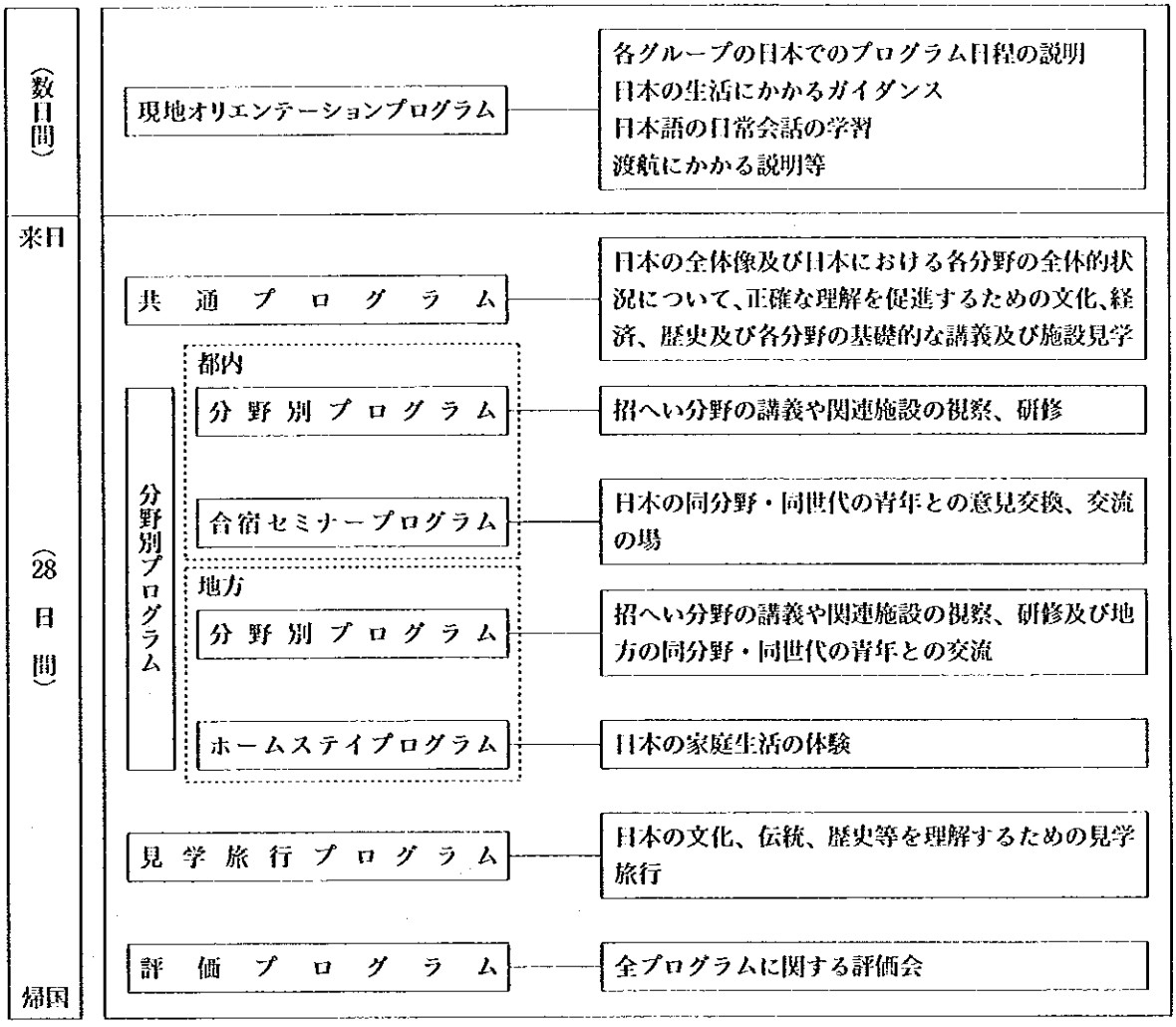
ウ 招へい期間

28日間。来日前、数日間の現地オリエンテーションプログラムを実施(実施しないグループもある)。

エ 受け入れ時期

1999年5月から2000年3月

(3) プログラム概要


(数日間)
現地オリエンテーションプログラム
各グループの日本でのプログラム日程の説明
日本の生活にかかるガイダンス
日本語の日常会話の学習
渡航にかかる説明等
来日
(28日間)
帰国
共通プログラム
日本の全体像及び日本における各分野の全体的状況について、正確な理解を促進するための文化、経済、歴史及び各分野の基礎的な講義及び施設見学
分野別プログラム
都内
分野別プログラム
招へい分野の講義や関連施設の視察、研修
合宿セミナープログラム
日本の同分野・同世代の青年との意見交換、交流の場
地方
分野別プログラム
招へい分野の講義や関連施設の視察、研修及び地方の同分野・同世代の青年との交流
ホームステイプログラム
日本の家庭生活の体験
見学旅行プログラム
日本の文化、伝統、歴史等を理解するための見学旅行
評価プログラム
全プログラムに関する評価会

(4) アフターケア事業

「青年招へい事業」により日本に招へいした青年が、帰国後も対日理解を増進し、日本の同世代の青年たちとの友情を持続させるよう、青年の帰国後、以下のアフターケア事業を実施している。

ア　文献供与

帰国青年に対し、日本でのプログラム内容をとりまとめた「交流レポート」やJICA海外向け広報誌「JICA Network」などの送付を行い、帰国後も対日理解が持続されるよう、情報提供を実施している。

イ　各国同窓会の設立

各国の帰国青年によって構成される同窓会設立を促進し、新規招へい青年の現地プログラムへの協力、帰国青年のための総会及び会報作成等の活動を同窓会が主体的に実施するにあたり、所要経費負担をするなど側面的支援を行っている。ブルネイ、インドネシア、マレイシア、フィリピン、シンガポール及びタイではすでに同窓会が設立され、カンボディア、ラオス、ヴィエトナムにおいては、準備中あるいはその機運が盛り上がっている。また、それ以外の国々でも、JICAの「技術研修員受入事業」により来日した元研修員と合同で同窓会を組織し、活動している場合が多い。

ウ　同窓会交流連絡会

各国同窓会の連携を図ることによって、各国同窓会を充実し、日本の招へい事業の効果を継続的、多角的に発展させるため、各国同窓会が一堂に会して交流連絡会を開催するにあたり、日本側は旅費等の経費面で支援するとともに、日本側代表者を派遣し、各国代表者との包括的な意見交換等を行っている。なお交流連絡会は、現在のところ、同窓会が設立されているASEAN諸国間で行われており、1988年に第1回連絡会がインドネシアで開催され、その後、毎年持ち回りで実施されている。

エ　アフターケア・チームの派遣

青年の招へいに中心的役割を果たした交流青年、ホストファミリー、関係機関担当者から構成される日本青年団を各国に派遣することによって、帰国青年の日本理解をフォローアップするとともに、受入関係者が各国の実態を把握することによって、より効果的なプログラム策定に役立てる。また、これらアフターケア・チームの派遣により、片側通行であった交流事業を相互に発展・拡充させ、一層の信頼と友情を深める。平成11年度は中国・モンゴル、ヴィエトナム、ネパールに3チーム派遣した。

1-2　平成11年度青年招へい実績一覧

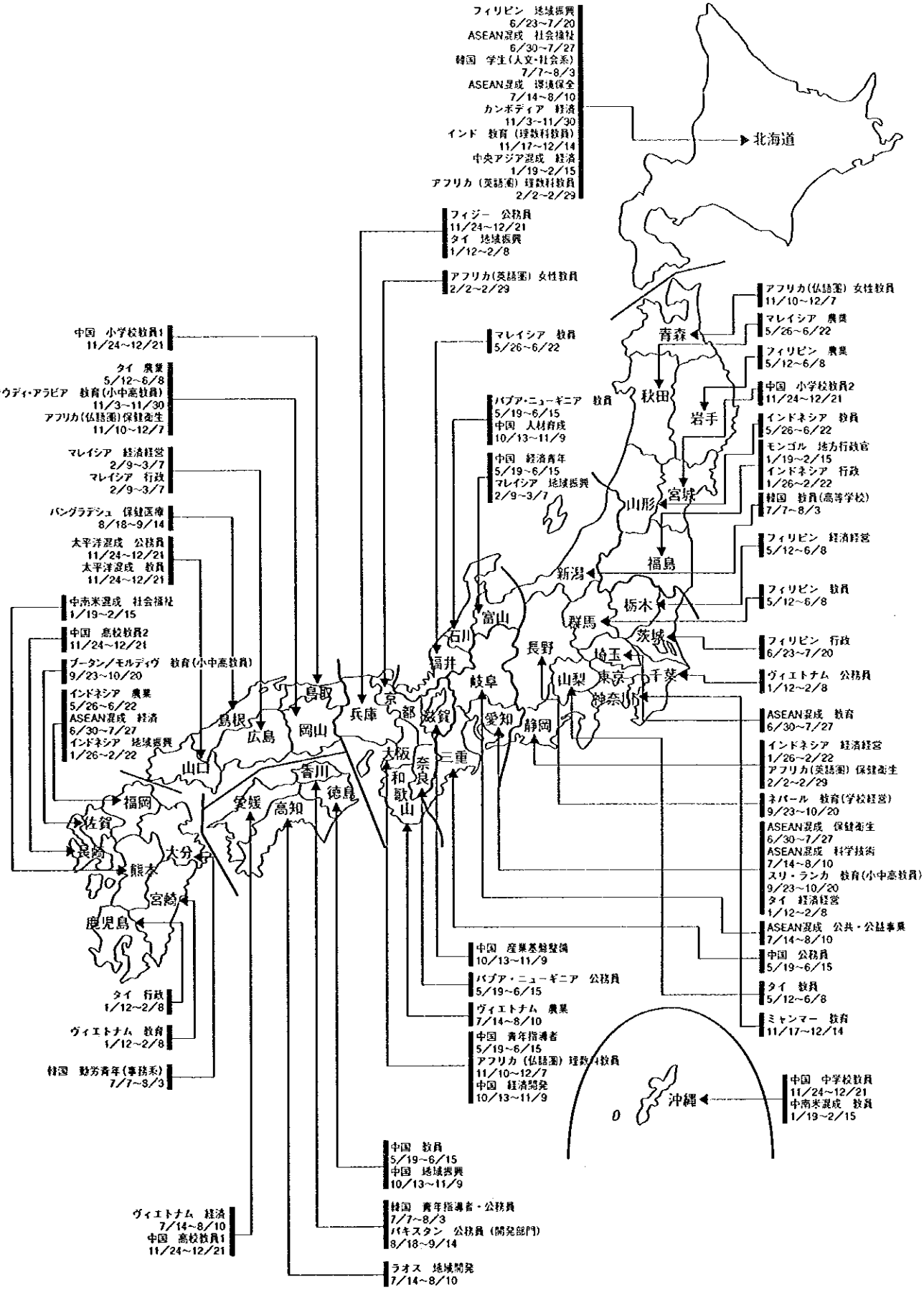
受入時期 陣・人数	国名	分野	人数	実施協力団体	実施県	地方実施協力団体
5月12日 ～ 6月8日 1陣16人	タイ	教員	23	(社)国際交流サービス協会	山梨	(社)青少年育成山梨県民会議
	タイ	農業	23	日本青年団協議会	岡山	(財)岡山県青年館
5月12日 ～ 6月8日 2陣75人	フィリピン	教員	23	(財)日本ユースホステル協会	群馬	(財)群馬県国際交流協会
	フィリピン	農業	23	(財)岩手県国際交流協会	岩手	(財)岩手県国際交流協会
	フィリピン	経済経営	29	(社)勤労厚生協会	栃木	(財)栃木青年会館
5月19日 ～ 6月15日 3陣30人	パプア・ニューギニア	教員	20	(社)日本経済青年協議会	石川	小松市国際交流協会
	パプア・ニューギニア	公務員	10	(社)青年海外協力協会	奈良	(社)まちづくり国際交流センター
5月19日 ～ 6月15日 4陣100人	中国	青年指導者	25	(社)青少年育成国民会議	大阪	(財)大阪府青少年活動財団
	中国	経済青年	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	富山	(財)とやま国際センター
	中国	公務員	25	(財)日本ユースホステル協会	三重	(財)三重県国際交流財団
	中国	教員	25	(財)日本友愛青年協会	徳島	徳島県青年海外派遣の会
5月26日 ～ 6月22日 5陣92人	マレイシア	教員	25	(社)国際交流サービス協会	福井	(財)福井県国際交流協会
	マレイシア	農業	21	(財)世界青少年交流協会	秋田	(財)秋田県国際交流協会
	インドネシア	教員	23	(社)勤労厚生協会	山形	山形県青年海外協力協会
	インドネシア	農業	23	(社)青年海外協力協会	福岡	(社)青年海外協力協会九州支部
6月23日 ～ 7月20日 6陣40人	フィリピン	行政	20	(財)世界青少年交流協会	茨城	茨城県外国青年招へい事業実行委員会
	フィリピン	地域振興	20	(社)日本経済青年協議会	北海道	千歳国際交流協会
6月30日 ～ 7月27日 7陣97人	ASEAN混成	教育	24	(社)日本国際生活体験協会	埼玉	上尾市国際交流協会
	ASEAN混成	経済	25	(社)青少年育成国民会議	福岡	(社)九州・山口経済連合会
	ASEAN混成	保健衛生	24	(財)国際看護交流協会	愛知	(財)国際看護交流協会
	ASEAN混成	社会福祉	24	(財)札幌国際プラザ	北海道	(財)札幌国際プラザ
7月7日 ～ 8月3日 8陣100人	韓国	青年指導者・公務員	25	(社)青少年育成国民会議	香川	(財)香川県国際交流協会
	韓国	勤労青年(事務系)	25	(社)勤労厚生協会	大分	大分県海外協会
	韓国	教員(高等学校)	25	(財)日本ユースホステル協会	新潟	(財)新潟県国際交流協会
	韓国	学生(人文・社会系)	25	(財)世界青少年交流協会	北海道	(社)滝川国際交流協会
7月14日 ～ 8月10日 9陣49人	ヴィエトナム	経済	24	(財)日本国際協力センター	愛媛	(財)愛媛県国際交流協会
	ヴィエトナム	農業	25	(社)青年海外協力協会	和歌山	(社)和歌山県青少年育成協会
7月14日 ～ 8月10日 10陣92人	ASEAN混成	科学技術	24	(財)豊川市国際交流協会	愛知	(財)豊川市国際交流協会
	ASEAN混成	環境保全	24	(社)日本経済青年協議会	北海道	釧路市海外青年招へい事業実行委員会
	ASEAN混成	公共・公益事業	24	(社)国際交流サービス協会	岐阜	岐阜県世界青年友の会
	ラオス	地域開発	20	(財)高知県国際交流協会	高知	(財)高知県国際交流協会
8月18日 ～ 9月14日 11陣40人	バングラデシュ	保健医療	20	(財)国際看護交流協会	島根	島根県国際交流青友会
	パキスタン	公務員(開発管理)	20	(社)青年海外協力協会	香川	香川県海外派遣友の会
9月23日 ～ 10月20日 12陣29人	スリ・ランカ	教育(小中高教員)	10	(財)愛知県国際交流協会	愛知	(財)愛知県交際交流協会
	ブータン/モルディヴ	教育(小中高教員)	10	(財)日本国際協力センター	佐賀	佐賀ユネスコ協会
	ネパール	教育(学校経営)	9	(社)駒ヶ根青年会議所	長野	(社)駒ヶ根青年会議所
10月13日 ～ 11月9日 13陣100人	中国	人材育成	25	(社)青少年育成国民会議	石川	(財)石川県ユースホステル協会
	中国	経済開発	25	(社)勤労厚生協会	大阪	(財)太平洋人材交流センター
	中国	地域振興	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	徳島	徳島県日中青年交流協会
	中国	産業基盤整備	25	(社)国際善隣協会	滋賀	滋賀県青年団体連合会

受入時期 陣・人数	国名	分野	人数	実施協力団体	実施県	地方実施協力団体
11月3日 ～ 11月30日 14陣50人	カンボディア	経済	30	(財)日本ユースホステル協会	北海道	とまこまい国際交流センター
	サウディ・アラビア	教育(小中高教員)	20	(社)青年海外協力協会	岡山	岡山青年国際交流会
11月10日 ～ 12月7日 15陣75人	アフリカ(仏語圏)	女性教員	24	(財)世界青少年交流協会	青森	青森県青年海外協力協会
	アフリカ(仏語圏)	理数科教員	25	(財)大阪府国際交流財団	大阪	(財)大阪府国際交流財団
	アフリカ(仏語圏)	保健衛生	26	(財)日本国際協力センター	岡山	津山と世界を結ぶ会
11月17日 ～ 12月14日 16陣50人	インド	教育(理数科教員)	30	(財)世界青少年交流協会	北海道	十勝インターナショナル協会
	ミャンマー	教育	20	(社)日本ユネスコ協会連盟	神奈川	鎌倉ユネスコ協会
11月24日 ～ 12月21日 17陣56人	太平洋混成	公務員	22	(社)日本経済青年協議会	山口	(財)山口県国際交流協会
	太平洋混成	教員	22	(社)日本国際生活体験協会	山口	世界青年徳山友の会
	フィジー	公務員	12	(財)日本国際協力センター	兵庫	(財)神戸国際協力交流センター
11月24日 ～ 12月21日 18陣 120人	中国	小学校教員1	24	(社)勤労厚生協会	鳥取	とっとり青友会
	中国	小学校教員2	24	(財)日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユースホステル協会
	中国	中学校教員	24	(社)青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
	中国	高校教員1	24	(社)青年海外協力協会	愛媛	愛媛県青年海外協力協会
	中国	高校教員2	24	(財)世界青少年交流協会	長崎	長崎県世界青年友の会
1月12日 ～ 2月8日 19陣69人	タイ	経済経営	23	(社)勤労厚生協会	愛知	ジャパンヤングサークル東海支部
	タイ	行政	23	(社)国際交流サービス協会	鹿児島	(財)鹿児島県国際交流協会
	タイ	地域振興	23	(財)世界青少年交流協会	兵庫	(財)兵庫県青少年本部
1月12日 ～ 2月8日 20陣51人	ヴィエトナム	教育	26	(財)ユースワーカー能力開発協会	宮崎	ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部
	ヴィエトナム	公務員	25	(財)日本国際協力センター	千葉	(財)千葉県国際交流協会
1月19日 ～ 2月15日 21陣35人	中央アジア混成	経済	25	(財)日本ユースホステル協会	北海道	北海道YMCA
	モンゴル	地方行政官	10	(財)世界青少年交流協会	福島	にほんまつ地域市民の会
1月19日 ～ 2月15日 22陣54人	中南米混成	社会福祉	28	(社)青年海外協力協会	熊本	熊本県青年海外協力協会
	中南米混成	教員	26	(社)日本国際生活体験協会	沖縄	(財)沖縄県国際交流財団
1月26日 ～ 2月22日 23陣68人	インドネシア	経済経営	23	(社)日本経済青年協議会	静岡	沼津国際交流協会
	インドネシア	行政	23	(社)青少年育成国民会議	福島	福島県青年海外派遣友の会
	インドネシア	地域振興	22	(社)勤労厚生協会	福岡	福岡県海外青年招へい事業実行委員会
2月2日 ～ 2月29日 24陣69人	アフリカ(英語圏)	女性教員	24	(財)ユースワーカー能力開発協会	京都	(社)青年海外協力協会近畿支部
	アフリカ(英語圏)	理数科教員	23	(社)青年海外協力協会	北海道	青年海外協力隊北海道OB会
	アフリカ(英語圏)	保健衛生	22	(社)青少年育成国民会議	静岡	(財)静岡県国際交流協会
2月9日 ～ 3月7日 25陣68人	マレイシア	経済経営	21	(社)国際交流サービス協会	広島	しょうぼら国際交流協会
	マレイシア	行政	25	(財)日本ユースホステル協会	広島	(財)広島青少年文化センター
	マレイシア	地域振興	22	(財)世界青少年交流協会	富山	富山県世界青年友の会
合計	73グループ 107カ国・地域 1,655人	カンボディア(30)　インドネシア(149)　ラオス(34)　マレイシア(149)　ミャンマー(20) フィリピン(150)　タイ(150)　ヴィエトナム(115)　太平洋14カ国・地域(86) 中国(320)　韓国(100)　南西アジア7カ国(99)　モンゴル(10) アフリカ49カ国(144)　中南米20カ国(54)　サウディ・アラビア(20) 中央アジア5カ国(25)				

1-3 青年招へい事業　国別年度別受け入れ実績

国名＼年度	昭和59	昭和60	昭和61	昭和62	昭和63	平成元	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	合計
ブルネイ	5	30	49	50	50	49	50	43	50	48	49	48	49	48	42	—	660
カンボディア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30	30	30	30	30	150
インドネシア	149	150	150	150	150	149	150	149	147	149	145	150	149	150	148	149	2,384
ラオス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	18	20	20	34	112
マレイシア	147	148	150	150	150	150	150	150	150	150	150	149	150	150	146	149	2,389
ミャンマー	—	—	10	10	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	20	140
フィリピン	149	150	150	150	150	150	149	147	148	149	150	149	150	148	149	150	2,388
シンガポール	149	150	150	150	150	150	150	147	149	149	147	146	149	148	106	—	2,190
タイ	149	150	150	150	150	150	150	150	149	147	150	150	150	150	150	150	2,395
ヴィエトナム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	98	99	99	100	115	511
ASEAN諸国小計	748	778	809	810	800	798	799	786	793	792	811	960	964	963	911	797	13,319
中国	—	—	—	100	100	50	199	200	199	197	200	197	200	200	200	320	2,362
韓国	—	—	—	100	99	99	100	98	99	96	100	98	100	97	99	100	1,285
モンゴル	—	—	—	—	—	—	—	—	10	10	10	10	10	10	10	10	80
インド	—	—	—	—	—	—	—	30	29	30	13	23	27	24	28	30	234
バングラデシュ	—	—	—	—	—	—	—	20	20	20	20	20	20	19	20	20	179
パキスタン	—	—	—	—	—	—	—	20	20	20	20	20	20	20	20	20	180
ネパール	—	—	—	—	—	—	—	10	9	10	10	10	10	7	10	9	85
ブータン	—	—	—	—	—	—	—	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45
スリ・ランカ	—	—	—	—	—	—	—	10	10	10	10	10	10	10	10	10	90
モルディヴ	—	—	—	—	—	—	—	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45
南西アジア諸国小計	—	—	—	—	—	—	—	100	98	100	83	93	97	90	98	99	858
アフリカ諸国	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50	100	97	95	95	92	144	673
パプア・ニューギニア	—	—	10	14	30	31	30	30	30	30	30	30	30	29	29	30	386
フィジー	—	—	10	10	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	163
その他太平洋諸国・地域	—	—	—	—	45	38	36	32	36	34	38	36	47	47	47	44	480
太平洋諸国・地域小計	—	—	20	24	86	84	78	74	78	76	80	78	89	88	88	86	1,029
中南米諸国	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50	49	54	153
サウディ・アラビア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	20	40
カザフスタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	5	11
キルギス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	5	10
タジキスタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	5	10
トルクメニスタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	5	9
ウズベキスタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	5	10
中央アジア小計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25	25	50
合計	748	778	829	1,034	1,085	1,031	1,176	1,258	1,277	1,321	1,384	1,533	1,555	1,593	1,592	1,655	19,849

分野別プログラム実施道府県



2. 招へい青年の印象

■アジア

■カンボディア

経済大国見学の旅

フウィ・シャン
(経済グループ)

青年招へい事業で1999年11月3日に日本に来た私たちは30人は、カンボディアが先進国という目標に近づく、その手段の一つを手にした。

日本はすべての分野において、ほとんど開発されている。国の先頭に立つ知識人も多くいて、その人たちに従う国民、そして工業技術も高レベルに達していた。

逆にカンボディアは同じ国民による内戦がやっと治まったばかりで、発達している隣国に負けないために、お互い協力し合って国造りを始めようとしている。

日本でのプログラムは、大阪から始まって、東京、新潟県六日町、北海道、広島、そして大阪に戻って関西空港より帰国する。

日本滞在中、多くの人たちと触れ合った。共に旅し、学び、遊び、スポーツもし、いろいろな体験をして、いろいろな思い出を作った。

苫小牧滞在中には札幌に行った。札幌ビールはおいしくて、カンボディアのビールが思い出された。

このプログラムで私たちは、日本の真の友情を知った。国の発展には平和が不可欠であることも分かった。特に、先進国の技術、工業、サービス業、人々との接触のしかたを学ぼせていただいた。

青年招へい事業によって、カンボディアと日本の二国間の友情は、肌の色による差別を超え、豊かさと貧しさを超え、より親密になり、共に戦争のない世の中、平和な世界を築き上げるだろう。このプログラムがカンボディアの国造りの一つの手助けになることは間違いない。日本で習得した知識をより多くの人々に広めたいと思う。

最後にこの素晴らしい機会を私たちに与えてくださったJICAおよび日本政府に感謝したい。

JICA、日本、日本国民の皆さんの21世紀に向けたますますのご発展を祈ります。

■アジア

■インドネシア

桜の国での１カ月

ハリマ・サディヤー
（教員グループ）

青年招へい事業に参加した感想を述べる前に、インドネシア、ならびに日本の関係者の方々に、心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思う。このプログラムは私にとって初めての海外体験であったため、たいへん印象に残った。今までマスメディアで見聞きするだけで私にとっては夢だった日本の各地を訪問することができた。

このプログラムを通して私は、日本のみならず、インドネシアの教育システムについての知識を深め、合宿セミナーに参加した日本人青年と意見交換をし、折り紙、陶芸、友禅染めなど、日本の伝統工芸を学ぶ機会をもった。

ホームステイをする前は、日本の方とうまくコミュニケーションができるのかと不安だった。そして魚料理の苦手な私は、魚、しかも刺し身を勧められるのではないかと、心配していた。しかし、ホストファミリーはやさしく親切で、私をいろいろな所へ連れて行ってくれたり、ホームステイ中は楽しいことばかりだった。ホストファミリーとの別れはとてもつらかった。

私が苦手な刺し身を試してみたのは、広島でだった。刺し身は日本人の好物ということでもあるし、日本の習慣を試してみたかったのだ。しかし、私は刺し身を食べることができなかった。

また、サクランボ狩りも貴重な体験だった。なぜなら、インドネシアではサクランボの木が育たないから。

このプログラムが将来もずっと継続して行われることを期待している。

ホームステイの素敵な思い出

サプト・フソド
（農業グループ）

青年招へい事業で日本に行ける、と聞いた時の私の幸せな気持ちは、言い表すことができない。

それもそのはず、私にとって桜の国として知られる日本を訪れる機会を得たことは、願ってもない幸福な出来事だったのだ。私の視野を広げる機会でもあり、日本の人々との交流を深めたい思いもあり、私はすぐに日本行きを決意した。

このプログラムの中で特に興味深かったのは、福岡でのホームステイだった。本当に有意義で、忘れ難い思い出となった。私は、親切な人の多い福岡の農村を訪れた。そして、農家が実践している野菜の栽培農法やその技術、さらに流通システムや彼らの農業への情熱を知ることができた。農家のほとんどが高齢者だが、皆仕事熱心で、新しい技術への寛容な姿勢や自然環境の保全に対して関心を持っていた。私は農家にお世話になり、家族の方々の温かいもてなしに心を打たれた。心からの歓迎を受け、あたかも自分がここに来ることを望まれていたような気さえした。

しかし残念ながら、日本の農家の生活を深く知りたいと思っても、2日間はあまりにも短く、またたく間に過ぎ去ってしまった。けれどもその時間は思い出として心に深く刻み込まれた。そして、祖国の農民も日本の農家のように仕事への情熱を持てるよう、彼らの指導にあたりたい、という気持ちになっていた。

平和よ永久に

スプリヤーディ
(ASEAN混成 教育グループ)

プログラムも終わりに近づきこれからのことを考える時、私にとってこの28日間とは、日本の伝統を探訪し、日本の習慣と融和し合った日々であったと思える。

私たちが日本で見たり、聞いたり、そして感じたことのすべてが素敵な甘い思い出となって残っている。このプログラムを通して描かれた私たち皆の夢を、言い表す言葉は見つからない。

日本の今日の繁栄は、日本人の精神に根ざした二本の柱に支えられているといえるだろう。

一本目の柱は、武士道の精神である。日本人は、謙虚さの気持ちの中に克己心もあると確信した。

二本目の柱は、追いつけ精神である。日本人は自国にあらゆる機会をもたらしてくれる世界中のどんな国からも、科学や技術を導入するためには、大胆かつ積極的に自国の窓を開けてきた。

しかしながら、今日の繁栄を誇る日本は、平和と心の底から湧き出る善良な気持ちなくしてはあり得なかった。

そのような理由からも、広島や長崎での出来事は、二度と起こしてはならない。私たちは、人々の尊大さや強欲さが危険な行為を招くのだと知った。

これらのことを、次の言葉からよく考えてみたいと思う。

神は一つであり、神はどこにでも存在し、全知全能である。

民族は一つであり、その民族とは人類である。

言葉は一つであり、その言葉とは心である。

喜びは一つであり、その喜びは自己管理によってもたらされるものである。

おかしな体験

クリスティナ・アグスティン
(経済経営グループ)

私は日本で体験した、ちょっとおかしなエピソードを素直に書きたいと思う。なぜなら、これを思い出すたびに私は日本のことを思い出し、なつかしむだろうから。

東京に滞在中、私とユナは同室だった。朝、シャワーを浴びる前、便座に腰を掛けた。腰掛けながら面白半分で、横にあったボタンをつついたり、つまみを回したりしてみた。そう、私は生まれて初めてこのようなトイレで用を足すのだ。

そのとき、突然〝ピュー〟とお湯が出て、「アチチッ！」。何が起こったのか分からなかった。とにかく熱くておしりが煮えてしまいそうだった。あわててバスタブに身を滑り込ませて事なきを得たが、便座を離れると自動的に止まると思った水は止まる様子もないのだった。

そうしているうちに、水は次々噴き出て、辺りはビショビショ。なんだか、おかしくて、どうしていいか分からず、一人でクスクス笑ってしまった。しばらくして、ようやく立ち直り、おそるおそるボタン操作の表示を注意深く観察してみたら……、ストップボタンが見つかった。よかった！

でも我に返ると、辺りはビシャビシャ。ユナに知られるのも恥ずかしい。私の後に、彼女がシャワーを浴びることは分かっていた。……と、名案が浮かんだ。バスタオルで濡れた壁とドアを拭いて、ついでに濡れた床も拭いて、小さいタオルで自分の体を拭く。これで万事うまく行った。

バスルームから出ると、ユナが「何、騒いでいたの」と聞いてきた。私は、「なんでもない。ちょっと滑っただけ」と答えておいた。でも私は、心の中で、「ふふ、彼女はまだ、洗浄機能付きトイレの使い方を知らないんだわ」と思っていた。とにかく、私はこれで、洗浄機能付きトイレの使い方をマスターしたのだ、ヤッター！

そして、沼津商工会議所を訪問した時のこと。トイレが和式だったので、私は用を足すのをやめた。すぐにトイレから出てきた私に、仲間たちが「あれ、

トイレに行きたかったんじゃなかったの」と聞いてきた。すかさず私は、「洗浄機能付きでないんだもん」と、さも知ったふうに答えた。ふふ、今や私も偉くなったもんだ。だって、洗浄機能付きトイレに慣れてしまったのだから。でも、インドネシアに帰ったら、またヒシャクで洗うことになるのだが……。

寒さの中の温もり

ヤヌアール・アフマッド
(行政グループ)

青年招へい事業の計画書を見た時、会津若松のホームステイの文字が真っ先に目に飛び込んできた。ホームステイの文字は、私の気持ちを一気に不安な思いに変えた。友人の家に泊まるだけでも落ち着かないというのに、全く習慣の違う異質な文化を持つ人の家に泊まるなんて、それも冬という未知の環境の中で……。

私のホームステイは、スリッパを履くという学習から始まった。インドネシアでは、家の中でスリッパを履く習慣がないので、私はお風呂に入る時もスリッパを履いて入ってしまった。当然のことながら、スリッパはビショビショ。なんてこった。緊張しながら、体を90度に曲げて、〝お父さん〟と〝お母さん〟に謝った。〝お父さん〟と〝お母さん〟は、大笑いして、「大丈夫です」と言ってくれた。

ホストファミリーとくつろいで、談笑した時の出来事。私はホストファミリーに〝子ども〟と呼ばれたが、インドネシア人にとって、自分のことを〝コドモ〟と呼ばれるのは、なにかたまらないおかしさがある。インドネシアでは、爬虫類に属する化石動物の一種に〝コモド〟(コモドドラゴンのこと)というのがいるからだ。ちょっと言い間違えたら、〝コドモ〟が〝コモド〟になってしまう。それがおかしくて、みんな大笑い。こうして、ぎこちなく、冷たい印象の日本人と一緒に生活するという不安は、徐々に消えていった。

まだ寒い冬は終わりを告げていないが、今ぬくもりを感じている。

日本の思い出

ムヘルラン
(地域振興グループ)

2000年1月26日から2月22日まで行われた青年招へい事業での日本滞在は、あっという間に過ぎてしまった。

日出づる国での1カ月の間に新しいものにたくさん出会うことができ、毎日が感動の連続だった。私たちインドネシア青年は、このプログラムに参加して、実際に日本を見聞できたことにたいへん感謝している。

印象に残ったものはたくさんあるが、一番目は日本を訪れて最初に見た、海を埋め立てて造られた関西空港の空からの眺めだった。隣り合わせて位置する空港と港の調和が非常に美しかったことが印象的だ。

また空港の出迎えが整然としていたことに始まり、道路の渡り方、ゴミの捨て方、タバコのマナー、と日本人はとても規律正しいと思った。

そして、コーディネーターがよく世話をしてくれたことも、日本の印象の中に強く残っている。すぐに親しくなって、私たちの名前を覚えてくれたおかげで、プログラムがスムーズに進んだ。

分野別都内プログラムと地方プログラムの実施団体の進行、調整も参考になった。お互いの立場を尊重して、プログラムが首尾よく実施されていた。

ただ、短い時間の中で、スケジュールがあまりにも豊富過ぎて、私は学んだ情報を完全に理解できなかったことがある。それに、もっと老人ホームや障害者施設、社会福祉施設の訪問があったら良かったと思う。

日本の思い出

あなたの冷たい風がなつかしい。
私の体を包んだ温かい抱擁が恋しい。
容赦なく吹き付ける雪に
私は打ち負かされることはない。
なぜなら私には感情があるから、
希望があるから。
さようならという言葉が乾いた唇から出てこない。
もう一度、一緒に過ごしたいから。

■アジア
■ラオス
わが心の日本

ヤン・パオ・パイヤヴー
(ASEAN混成 社会福祉グループ)

来日前、私の日本についての印象は薄かった。そして今、私は日本の歴史と文化についてより深い知識を得て、帰国しようとしている。特に講義で得た知識や日本人青年との出会いといった、忘れ難い思い出を持ち帰る。

札幌市で行われた合宿セミナーは、日本人青年と出会い、日本の文化や今日の若者について共に話し合う、よい機会だった。ここでの討論は、アジア諸国の現代の若者についてのより深い知識や理解を促すものだった。そして、たくさんの新しい友達もできた。この友情がこれから年月を経て、長く続くことを期待している。

私たちは皆、もう一つのハイライトとしてホームステイを楽しみにしていた。実際それは、楽しく充実した経験となった。日本の家で生活するというのはどういうことか、を体験したのだ。ホストファミリーの方はとても親身で親切にしてくださり、そのおかげで私たちのホームステイは本当に快適で楽しいものだった。

広島の原爆資料館を訪れて、私たちのほとんどが初めて、第二次世界大戦が日本にどんな影響を与えたかを理解することになった。そこで深い知識を得た私たちは、この悲劇が今後、誰に対しても、どの国に対しても繰り返されてはならないことを、祈らずにはいられない。

この青年招へい事業は、実り多く意義深いものになった。私たちはたくさんのおみやげだけでなく、ここで得た経験と日本の美しい思い出を持ち帰り、自国のこれからの発展に役立てたいと思う。

日本政府とJICAに感謝したい。

ありがとうございます。

忘れられない思い出

ポンサイ・ゲオソンファン
(ASEAN混成 環境保全グループ)

開発途上国・地域のためにJICAが行う青年招へい事業によって来日することができて、私はとてもうれしく思う。私にとって初めての海外への旅で、先進技術国かつ経済大国で、親切な人々のいる日本を訪れることができて、本当に幸運だった。

日本滞在中、私たちは、大阪、東京、釧路、広島の4都市を訪れ、多くの場所を見学した。各都市で私たちは、環境保全についての講義を聞き、温かい歓迎を受けた。

特に釧路市では、交流パーティーや歓送会、茶道や華道、釧路湿原でのカヌー体験を楽しんだ。

最高の思い出はホームステイしたことだ。ホストファミリーは、私を車でお祭りや買い物、観光に連れて行ったり、私がシーフードが好きだと言うと、シーフードの料理を作ってくれたりした。短い滞在期間だったが、ホストファミリーの皆さんは親切で、楽しい思い出を作ってくださった。心から感謝したいと思う。

このほか、私たちは日本人青年と東京での合宿セミナーで交流した。そこで私たちは、日本の文化、習慣、ライフスタイルについて学び、また環境保全についての討論も行った。日本人の青年は皆、とても親切で礼儀正しい人たちだった。

広島では、失われた人間の命、原爆ドームを見て、悲しかった。もし戦争がなければ、このような悲劇は起こらなかったと思った。私たちは戦争を防がなければならない。

ASEANと日本の青年の間でいろいろなことを学び合うことができて、このプログラムはたいへん有意義だった。この貴重な経験を自国に持ち帰り、日本とASEANの国々の友好関係が永遠に続くように努力したいと思う。

日本を知る機会を与えてくださったJICAに感謝したい。

このプログラムでお会いしたすべての方々の幸福とご健勝と一層の発展をお祈りします。

どうもありがとうございました。

日本の地域開発に対する印象

ソーンパチャン・タウィーカム
(地域開発グループ)

私は、青年招へい事業で来日したラオスの地域開発グループ参加青年を代表して、実際に目で見て感じた印象や感想を述べたいと思う。

私たちは、さまざまな視察先の訪問や日本人青年と一緒に意見交換したりして、1カ月という短い期間ではあったが日本で生活した。私たちは、日本滞在中、自国が開発途上国から脱して発展するために活用できる多くの知識を得ることができた。その中で私が一番印象に残ったのは、地方自治体との意見交換会と日本人青年との合宿セミナーだ。そこでの交流は、私たちラオス人青年にとって日本人青年との友好関係を深めるきっかけになり、ディスカッションでは日本人青年からさまざまな地域開発の事例を示していただいた。加えて、工場や進歩した技術を持ち、収入の多い、米ナス、コメなどを栽培している農家の視察もできた。

私たちは、日本で得た知識と経験を生かし、ラオス国民が進んだ農業技術に関心を寄せ、学び、その上で一生懸命栽培した作物が食糧の確保および商品作物としてラオス国民自身の生活水準を向上させられるよう支援していきたいと思う。

それ以外にも、社会福祉においては最新の設備が整った老人ホーム、インターネットを利用した学習をしている中学校を訪問し、私たちのもった感想は、"日本の社会は最新の科学技術のシステムがあり、発展していて、公平な社会である" ということである。

ホームステイも、私にとって一生涯忘れられない経験だ。なぜなら、日本の家族は、心の奥から私のことを手助けし、お世話してくださり、よって私たちは友情を築くことができたからだ。

このような経験のできる青年招へい事業は、これから何年も続けてほしいと思っている。

最後に、JICA、この事業のすべての関係者の方々のご健康とご活躍をお祈りします。

ありがとうございました。

■アジア

■マレイシア

日本の社会

サルワテッイ・バドゥロディン
(教員グループ)

私は初めて日本に足を踏み入れて、日本の社会に対する好奇心が私自身の中に募った。日本の大都市や建物を見る限りでは、かつて私が訪れたほかの先進諸国と変わりはなかった。

日本の社会は時間厳守である。特定の人だけが時間を守るのではなく、バスにしても、バスは定められた時間に必ず出発する。これはたいへん驚くべきことで、マレイシアではほとんどあり得ないことだ。

また、日本社会はたいへん礼儀正しく、他人への尊敬の念がある。彼らはあいさつする場合は、必ず誰にでも頭を下げる。

私たちは、多くの前向きな態度を日本の社会から学ぶことができた。しかしながら、若者のなかにはあまり好ましくない西洋の文化に影響された人々も見受けられた。世界に賛美されている日本の社会的価値観が、時代に飲み込まれないように、なんらかの措置がとられるべきではないだろうか。日本文化の優秀さについて、若い世代に認識させるためには、恐らく学校における道徳、および宗教教育に関する科目が必要であろう。

日本、日本の社会について学ぶことができた多くの新しい経験は、忘れることはないだろう。

私と日本

マズラン・ビン・セルディン
(農業グループ)

私は学んだ。

将軍徳川、明治維新、広島・長崎への原爆、相撲、侍、着物、……

私は聞いた。

最新技術、北海道と農業、阪神・淡路大地震、寿司と刺し身、2002年ワールドカップ、京都と文化、……

現在（1999年5月26日）。

大阪に到着。東京と秋田に新幹線で向かい、羽田と広島へ飛ぶ、京都に立ち寄り、大阪に戻る。

私は見た。

東京とそこでの人々の生活。秋田と緑豊かな水田。

広島と貞子さん（貞子像）の願い。京都の神社と芸術。

日本、そして国民は時間を追いかけている……。

私は理解した。

日本はギャラリー。

あふれる色とりどりの絵。

別れる時が来た（1999年6月22日）。

「さよなら」と手を振る家族。

ほんのわずか訪れただけの日本。

心の片隅に遠くある。

JICA、世界青少年交流協会、秋田県国際交流協会、この機会を与えてくれてありがとう。

日本での672時間──将来への友情

マリアム・ビンティ・ハッサン
（ASEAN混成 経済グループ）

友情はとても貴重なもので、さまざまな体験を通じて築かれる。その友情によって、私たちの経済グループが結成された。

私たちが出会った人たちについて：

私たちが日本で最初に出会った人は、笑顔でとても友好的なコーディネーターだった。コーディネーターは、何でも私たちが必要なことを助けるために、そばにいてくれた。東京・新宿では、カラフルな髪とトレンディーな服装の若者に出会い、とても面白かった。

文化：

私たちの新しい家庭であるホストファミリーに私たちの文化を紹介した。2泊3日の間、私たちは日本人の息子や娘になった気持ちで、日本の文化を学んだ。日本人青年とのディスカッションでは、いろいろなことを学んだ。特に結婚や交際などの話題が注目されていた。すべてのディスカッションで、ゆっくり話すことを学び、話しながらよく笑った。

お父さんとお母さん：

2泊3日の間、私たちの里親になってくれた日本のお父さんとお母さん。私たちは、本当の日本人の息子や娘になったような体験をすることができた。

日本語について：

「ニホンゴ、ワカリマセン」

日本語は少ししか分からないけれど、私たちはコミュニケーションをしようと一生懸命努力した。

「おやすみなさい」：

面白い場所を訪問するのを楽しみにして待ちながら、街を行ったり来たりして、長い間バスに乗っている時は、いつも「おやすみなさい」と言っていた。

メディア：

メディアは私たちの福岡県知事表敬訪問を伝えた。歓送迎会のパーティーで私たちが披露したダンスや歌などをテレビで放送してくれたらよかったのに、と思う。

郵便局：

郵便局から出した手紙には、自宅にいる愛する家族に、家族を恋しく思っていること、どれだけ楽しく過ごしているか、を書いた。母国にいる人たちとのコミュニケーションの方法は、手紙だけでなく、緑や灰色の公衆電話もよく利用した。それから、インターネットが利用できる〝キンコス〟も忘れてはならない。私たちはコミュニケーションや会話なしでは生きてはいけなかった。

人生の672時間のすべての経験から生まれた友情を将来に向けて抱き続けていきたい。

いろいろありがとうございました。

ニッポンにいた1カ月

マリア・ザイナル・アビディン
（経済経営グループ）

ニッポン！　ニッポン！　ニッポン！

2000年2月9日。

私はマレイシアから来た……

そして今、私はしっかりとこの地を踏みしめている。

オハヨウゴザイマス。

大地を見つめる、綿かと思う。

オー！　雪だ。

サムイ、これは私が日本で初めて口にする言葉。

ドッブ、ドッブ、ドッブ…　何？　あれは何？　マレー鉄道？

違う、違う、〝のぞみ〟が疾走しているのだ。

こんにちは…　親しみを込めた歓迎。

チョット　マッテ　クダサイ。ちょっと待ってください。

カワイイ。日本のお嬢さんに対する私の称賛。

スゴイ。庄原の地に対する私の感嘆。

オイシイ。スルンディン（マレイシア料理）をお代わりする私。

オトウサン、オカアサン。忘れられない皆様との思い出。

大きく振られる手。こぼれ落ちる涙。

いろいろありがとうございました。

1945年8月の静かな朝8時15分、広島に原爆が落とされた。

広島、真っ暗。

母たちの祈り、子供たちの希望。

世界の叫び、地球の平和。

21世紀、友情を育むその微笑み

サヨナラ…　サヨナラ…　サヨナラ…

ニッポン－マレイシア…

日本の交通システム

ズルザラニ・ビン・エデン
（行政グループ）

日本は世界において最も交通システムが発達した国である。日本全土が、空路、海路、そして陸路で結ばれている。特に素晴らしいのは、山の多い列島から成っている地形をものともしない陸路交通システムである。

都市と地方を結ぶ重要な役割を担う陸路交通のなかでも、特に重要なのは鉄道システムである。高速・安価・正確な鉄道は、日本人にとってごく一般的な交通手段である。全国のほとんどが新幹線、電車、モノレール、路面電車、地下鉄といった多種多様な鉄道網によって結ばれている。それらは常に正確な時間に運行されているため、人々に好まれている。他国と比較すると、日本はより多くの鉄道を有している。最高時速300キロという速度を誇る新幹線は、最も重要な鉄道機関であり、世界においてもその速さは目を見張るものがある。

新幹線は九州の博多から本州の盛岡までの主要都市を結んでおり、たいへん乗り心地も良く、車内にはトイレ、食堂などの設備が整っている。また、障害を持った人や高齢者のための設備もある。つまり、日本は国民が安心して利用できる交通機関の整備を目指し、多大な努力をしているということができる。

日本では、ほとんどすべての交通手段が駆使されており、その基盤整備に力を注ぐとともに、障害を持った人、高齢者、そして歩行者に対しての配慮も忘れてはいない。政府が近代的で素晴らしい交通システムを整えているため、日本国民はたいへん幸せであろう、と思う。

訪問――一つの学習方法

アフマッド・バドゥリ・ビン・ジャアファル・イスマイル
（地域振興グループ）

知識を増やすには、整備された機関における教育、読書、研修、ある場所の訪問等、さまざまな方法がある。たとえどんな方法であっても、目的は同じである。つまり、知識を得て、人、社会、国家の利益のために一般的に学ぶか、専門的に学ぶかということである。

視察研修を通して、参加者も受け入れ側も、両者がある問題について情報、政策、技術等、意見を交換することによって、なんらかの利益を得ることができると思う。国家間の背景(先進国と開発途上国)は異なるが、学びながらの訪問は、開発途上国がどのように自国を開発することができるか、アイデアや豊富な経験を得る助けとなるだろう。

一方、先進国も援助するための機会を知ることができる。つまり両者が、経済的・政治的・社会的な利益を得るのではないだろうか。実際は、知識を増やす過程が重要なのではない。与えたり、受けたりする者は、必ず恵みを得ることになるということである。

■アジア

■ミャンマー

青年招へい事業について

ムゥ・ムゥ・ミィン
(教育グループ)

私はJICAの青年招へい事業により、教育グループの一員として11月17日に来日し、生まれて初めて秋の〝寒さ〟を実感した。富士山や紅葉の美しさはたいへん魅力的で、また仏教徒である私は、鎌倉の大仏を参拝し、敬虔な気持ちを味わうことができた。

広島では、被爆体験者の話を聞いたほか、世界遺産に指定されている建築物などを見学して、知識を深めることができた。

私たちは、日本の教育制度が子供たちの能力と興味に応じて個性を伸ばすことを重視していることを知った。また、日本とミャンマーのさまざまな分野の教員が親しくお互いの意見を交換できるプログラムによって、二国間の友好親善関係がより一層深められ、たいへん有意義だった。

日本滞在の1カ月間、多くの日本人の方々から温かいおもてなしを受けて、私たちはとてもうれしかった。今、日本の方々とお別れしなければならないことは、残念でならない。

私たち参加青年は皆、日本人の実際の生活に触れることができた。

青年招へい事業は、日本とミャンマーの相互の友好促進と知識増進にたいへん有益であり、JICAの方々の誠意に対し心から尊敬の念を捧げたいと思う。

■アジア

■フィリピン

日出づる国への旅

ロレンソ・サントス・ヒポリト・Jr.
(教員グループ)

私たちフィリピン人の国民的英雄、ホセ・リサール博士は、その著で日本への好感を表明している。博士は多くの旅をし、ほぼ全世界を回ったが、彼にとって日本は特別な国だった。彼は日本人が正直で秩序を重んじ、勤勉であることに感心し、ぜひ日本に住んでみたいと思った。しかし当時彼は、アジア民族主義の指導者であったため、在日スペイン領事館の通訳職を辞退した。

博士の書を読んで、私はなんとかしていつかこの〝日出づる国〟を訪れてみたいと思うようになった。この夢が実現するとは思っていなかったが、幸運にも青年招へい事業の参加者として28日間日本に滞在することとなり、日本について多少とも知ることができた。

私はホセ・リサール博士に同感である。日本文化はずっと同質性をその基本としており、今でもこれは支配的傾向である。望ましいとされる価値も、おのずとこの事実から導き出される。誠実さ、秩序正しさ、勤勉さは、〝集団中心主義〟に重きを置く日本ではとても大切な要素なのだ。科学技術の発達に伴う急激な変化にもかかわらず、日本は世界文明に貢献するその独自の文化を保ち続けている。

心が通った日本体験

ノエル・マタルボス・サンダジェノ
(農業グループ)

実際に日本を訪れて日本の文化や社会を体験したい、そんな希望を抱いて私たちは来日した。そして私たちは日本の人々と心を通い合わせて初めて、私たち自身の旺盛な好奇心を満足させることができた。

絵はがきで見た息をのむほど美しい日本の風景、出版物に喧伝されていた日本の先端技術、寺や城などの歴史を感じさせる景観。私たちは日本に来て、

それらが本当だったことを知った。日本は美しい自然と豊かな文化に恵まれた国だった。

日本の人々は自然を大切にし、自然と調和して暮らしている。

また、神道や仏教を重んじ、神仏を畏怖する人々は、国中にたくさんの寺や神社を建立した。

岩手でのプログラムで、私たちは日本の農業について理解を深めることができた。日本は世界でも有数の農産物輸入国だが、進んだ農業技術と機械で限られた農地を効率的に耕作し、農業生産の向上に努めている。生物工学に裏付けられた最新の農業技術は生産高の倍増を可能にした。また特筆すべきは、日本では農家自身が土地を所有しているのだ。刺し身など、魚を好む日本人にとって、漁業が重要な産業であるということも、岩手で学んだことの一つである。

合宿セミナーは、日本とフィリピンの文化の違いを際立たせることになった。互いに共通点もある半面、技術の発展の度合い、特に農業の国際的競争力に関しては、両者に大きな違いがあるようだ。ともかく、相違を乗り越えて連帯し、互いに両国の未来を担う若者としての自覚を促された合宿セミナーだった。

日本は伝統的に家族の絆が強く、子供の教育が最優先される。ホームステイは、日比両国の信頼、友情、相互理解を育む素晴らしいプログラムであった。また、木と畳をバランスよく用いて建てられた日本の家屋も印象的だ。

東京と広島の見学旅行で、日本の文化、社会、伝統、歴史について多くのことを学ぶことができた。いろいろなことを学べば学ぶほど、私の心の中で、早く帰国したいという欲求が強くなっていった。

私は、西暦2000年に向けてのフィリピン食糧自給計画に参画し、精いっぱい仕事をしたいと思う。

日本――すがすがしい体験

ロナルド・タヤグ・バルユト
(経済経営グループ)

私にとって日本は、いろいろなものが交じり合ったもの、という印象である。その典型的な例として、最先端技術が多くの無名の人々によって支えられている点が挙げられるだろう。

実際に日本を体験して、発展と同時に自然や伝統の保護とのバランスを大事にしている競争社会であるという、私の日本に対するイメージはさらに強くなった。徐々に忍び寄る物質主義と価値観の歪みを阻止するためにも、このようなバランスを取ることが必要だと思う。

私の28日間の日本滞在を通じて、英語をほとんど話せなくても、私の伝えたいことに耳を傾け、理解しようとしてくれた人たちから根気強さを学んだ。また新たにできた日本の友人、合宿セミナーの日本人参加者、ホストファミリー、コーディネーターの方々との会話や交流は、日本の人々の知恵や行動に触れ、日本の複雑な社会を理解するのに大いに役立った。

日本人の謙虚さは、深くお辞儀をするという習慣にも現れている。お辞儀は大きく膨れ上がったプライドを削ぎ落とすのに有効な手段である。さらに日本は私に、自分の欠点を認識し、可能性を伸ばすよう教えてくれた。このあくなき向上心が、日本を敗戦による廃虚から立ち直らせ、飛躍させたのだろう。

日本人が指を折りながら数を数える表現には、もっと友達や富、技術、ひいては部外者の理解さえも得ようとする、前向きの姿勢が感じられる。時間に正確なことも日本人にとって重要な意味を持つ。電車の発着、スムーズな交通の流れ、約束事、そして楽しむことでさえ、正確な時間に沿って行われる。日本人は、現在の豊かな社会を維持していくという重責を担っている。そのために日本人は懸命に働かなければならないし、働くことに幸せを感じている。しかし、それらのプレッシャーで神経が疲れると、お酒を飲んだり、温泉や銭湯で緊張を解きほぐしている。

日本を十分に理解するには、28日間の滞在はあま

りにも短すぎて、日本の全体像をとらえたとは言い難い。しかしながら、日本で得たこれらの経験や思い出は、いつまでも私の心に刻み込まれることだろう。そして日本の友人たちと分かち合った夢の記憶は、これからも私を勇気づけてくれるに違いない。

日本を知る――日出づる国への旅

ルフィノ・ウォン・スン・Jr.II
（行政グループ）

日本は経済大国であり、科学技術の分野でも世界をリードすると同時に、その近代化にもかかわらず、美しい自然を残している。環境保護を進めることにより、豊かな自然を残してきたのだ。日本の人々の温かい心と、几帳面さを学ぶと同時に、私はフィリピンの文化や家族観について日本の方に紹介した。これは貴重な経験となった。

立派な公共施設をいくつも訪れ、それにふさわしい素晴らしい職員の方々との出会いもあった。地域政策についての県庁職員との意見交換はたいへん有意義なものとなった。

このプログラムの中での最高の思い出は、ホームステイだ。ホストファミリーの家に滞在中、日本の生活様式を直接学ぶことができ、また息子のように接してもらった。これは生涯の思い出となるだろう。

私のこの思い出深い旅も、辛抱強く、助力を惜しまない関係者の皆様のおかげだといえるだろう。日本とフィリピンの若者の間の真の友情を育むために彼らが費やしてくれた時間、惜しみのない努力にはいくらお礼を言っても足りないくらいだ。日本の皆さんと一緒に過ごした時間は何物にも代え難い大事な思い出として、私の胸の奥に残るだろう。

とても楽しかった、いろいろありがとうございました。皆さんのご多幸をお祈りします。

団結への道

バーニー・ドラトゥレ
（地域振興グループ）

青年招へい事業は、私たちにとっては大事な精神機能である頭脳と心（知性と感性）を同時に貫く剣のようであった。そのおかげで、どの国においても開発の概念と過程は、変わらないことを確認できた。人々が気持ちを一つにして、目標を定め、頑張ることが出発点なのである。いつも忙しそうにしている日本人を見れば分かるとおり、献身、規律正しさ、仕事熱心の三つが成功を生むためには必要だ。リーダーとそれに従う者が、誠意を尽くしてやるべきことをやってこそ、成功はやってくるのだ。

さらに、文化や伝統、言葉が違っても、国同士、あるいは国民同士の相互理解や協力関係の妨げにはならないことを学んだ。日本とフィリピン、私たちが日本滞在中にお会いした日本人と私たちの関係がよい例である。新しく友達になった方々は、日出づる国で見いだした大事な宝物である。

世界に平和、繁栄、健康がもたらされることを祈ります。

いろいろありがとうございました。

多様性から生まれる友情

マリア・ゾレイダ・A・トーレス
（ASEAN混成 科学技術グループ）

ある時、朝食の会話で、コーディネーターに尋ねられた。

「あなたはこのプログラムから何を得たのかしら」

私の第一の反応としては、最初の経験が最後まで続く、と言おうとしたのだが、私の経験のすべては一点、すなわち友情に尽きる。

JICAは、青年招へい事業によりASEAN青年が交流を深め友情が芽生える、という主な目的を果たしたと思う。お互いの文化の違いを認めつつ、一人ひとりが姉妹兄弟になり、難しい日本語を共通の言葉として使い、28日間滞在した場所がわが家となった。

科学技術の発達というテーマのもとに、科学技術に関連した大学、省庁、企業を見学することで、新たな概念、体験および思考を体得した。

ホームステイは、日本人の暮らしを体験する、社会文化的な側面をもつプログラムで、毎日日本語を話し、日本食を味わい、畳の部屋で寝起きし、お母さんとスーパーマーケットに買い物に行き、茶道の体験もした。

そして今、一人ひとりは経験を通してずっと豊かになった。すなわち、友情の体験から多様性の中でのまとまりが生まれたのだ。すべての境界を超えた体験は新幹線より速く、エコカーより環境に優しく、経済効果も高いもので、まさに青年招へい事業の目的そのものを達成したのだ。

豊川市国際交流協会、日本人参加青年の皆様とコーディネーターの誠意に満ちたご尽力に感謝します。

■アジア

■タイ

友好のほほえみ

ポーンパナー・スワンネート
(教員グループ)

大きな鳥に乗って成田空港に着陸した瞬間、「この国の人々と友情を築くんだ、この国の人々のほほえみに出合えるんだ」と思い、私は、自然にほほえみがこぼれていた。

そうして私は、親友や兄弟、家族の一員に向けられるような、愛情にあふれ、親しみのある、ほほえみに出合った。

私はこの桜の国で、28日間を過ごしたが、一番心待ちにしていたのは、広島平和記念公園に行く日だった。ここは以前から自分の目で見てみたいと思っていた場所だ。

実際に訪れてみて、その周りには木々が茂り、記念碑が並び、壊れていて古くて瓦礫と化した建物があり、ほかの観光地と大きな差はないと思った。しかし、それらの意義、歴史、成り立ちは違う。私は初めて、原爆資料館で被爆の写真などを見た。

そこで私は、世界平和を望み、一生懸命に生きようとした女の子のことを知った。この女の子がきっかけでできた記念碑まで歩いていくと、私は目頭が熱くなり、最後には周りにかまわず、立ったまま泣いてしまった。私はこの女の子に、星をくわえた鶴を折ってあげようと思った。

そして私は、その女の子の霊に言った。

「私もこの世界が平和であるように願っている一人なのよ。私が、あなたがかなえられなかった夢をかなえてあげるわ。私が帰国したら、『私が見てきた日本という国は、真実の平和を生む友好のほほえみたくさんあったあった国なのよ』って世界のみんなに聞かせたい。さよなら、平和の国に眠る女の子」

日本への想い

ノコム・ペートパー
(農業グループ)

日本――先端技術を発展させ、アジア経済の指導者としての役割を担う国。

日本は第二次世界大戦を引き起こした当事者であることも忘れてはならない。しかし、打ちのめされ、廃虚となった国土も、短期間で復興を遂げ、再びアジアで群を抜いて発展した国となった。そのことが、私にとっては不思議でならなかった。

日本に降り立ち、さわやかな風に吹かれ、いろいろなものを見聞きするうちに、ここはそんなに悪い国ではない、と思い始めていた。

日本人は自然を愛し、日本の自然は想像以上に美しかった。そして日本人の規律正しさには称賛を贈りたい。

ホームステイが行われたのは、小さな山間の村だった。しかし、私はそこで、日本人の責任感ある暮らしを垣間見たような気がした。人々はゴミを分別し、空き缶を圧縮して捨てる。私が何気なく捨てたゴミをホストファミリーの娘さんが捨て直してくれた時には、私は顔から火が出るくらい恥ずかしかった。

日本は資源のない国だが、この忍耐強く思慮深い人的資源こそが今日の日本の発展を支えているのだ。

私たちは広島を訪れた。終戦から50年以上たった今も、残された資料からは血塗られた無念の叫びが聞こえ、戦争は人類の犯した過ちだと認めざるを得ない。これまで私は、戦争を終結させるための原爆投下は必要悪だと認識していたが、この惨状を目の当たりにして、私の考えは大きく変わった。戦争がなければ核兵器もなくなる。世界平和のために核兵器の開発はやめよう。戦争もやめよう。

「安らかに眠ってください。私たちは二度とこのような過ちは繰り返しませんから」

この言葉に日本の戦争責任への思いが込められている。

友情の木

ソーンラム・ブッダチャート
(ASEAN混成 保健衛生グループ)

青年招へい事業に参加して、まだ行ったことも見たこともない日本を訪れることができると知った時、私たちは友情の木の種を受け取ったように思った。そして、日本とASEAN諸国の友人たちとともに、この友情の木を日本でできるだけ大きく育てなければ、と感じた。

私たちは、広い心と友好の精神、そして一番大切な誠意をもって友情の木の育成に努めた。それは、ほかの国々の仲間も同じ気持ちであった。私たちの心は喜びであふれ、その喜びが一層友情の木を強く大きく育てた。

大きく茂った〝青年招へい事業〟という名の森から、私たちは体験を通して多くのことを学んだ。日本の木からは、自己鍛練の大切さと社会全体のための人材育成の重要性を知った。そして、高度技術産業を国の基本としながらも、伝統文化を守り育てていくことを忘れてはならないということも知った。

ASEANの木からは、インドネシア、マレイシア、ラオス、フィリピン、ヴィエトナム、そしてタイについて、お互いさまざまなことを学ぶことができた。そして私たちは、〝友情に国境はない〟という真理に到達した。

これから私たちがしなければならないことは、この〝友情の木〟の種を国に持ち帰って育てることである。できるだけ大きく育てなければならない。大きく、強く、私たちの心の中に、永遠に……。

異国の友

ウィーラポン・ボディーラット
(経済経営グループ)

こんにちは。私の名はウィーラポン・ボディーラット、タイの招へい青年の一人だ。私のとても大切な経験は、青年招へい事業に参加して日本に約1カ月滞在し、多くの友人を得たことだ。しかし、その

なかでも特に二人の友達を皆さんに紹介したいと思う。

初めの一人は、田中きよ子さんという70歳になるご婦人だ。私が偶然、彼女と出会ったのは、私が自主研修の日に一人で、朝早くから夕方まで港町・横浜に買い物や写真を撮ったり絵を描いたりするために行った時のことだった。私が写真を撮っていると、一人のおばあさんが話しかけてきた。そこはそのおばあさんの大好きな場所だったのだ。私たちは歩きながらおしゃべりをしたり、写真を撮り合ったりして幸せな時間を過ごした。私はタイの記念品を彼女にプレゼントした。彼女は小銭入れの中から幸せのお守りを取り出して私にプレゼントしてくれた。もちろん言葉は通じないけど、私はおばあさんが一緒に歩いていて幸せそうにしているのを感じていた。私ももちろん幸せな気持ちだった。

もう一人は、幼稚園の子でシュンスケちゃんだ。彼は名古屋港を見学に来ていた幼稚園の園児の一人だった。シュンスケは私が日本に来た外国人であることを知っていた。彼は一生懸命、私を連れて公園の中や小さなトンネルを見せながら日本語で説明してくれた。もちろん私は全く分からない。そのうちに、シュンスケの友達もやって来て、私が彼らを空高く抱き上げたり、輪になったり、背中に乗せてあげたりしていると、みんな喜んでいた。私も楽しい思いをしていた。シュンスケが私にあめ玉をくれた。私はものすごくうれしくなった。あめ玉をもらってこんなにうれしかったことは、今までの人生で一度もなかった。

そのあと、私たちは公園近くのレストランで昼食を食べていた。そこには幼稚園の子供たちや先生もいた。その中で、シュンスケの友達のダウン症の子が一人で寂しそうに立っていたのだが、私がそう思った瞬間、子供たちがその子に駆け寄ってきたのだ。この光景は今までにない感動を覚えるものだった。涙が出そうになった。友情は差別をしないのだ。

子供たちが名古屋港を去る時、シュンスケが私に〝さよなら〟を言いに来た。私たちは、手を振りながらお別れした。

田中きよ子おばあちゃんとシュンスケちゃんと出会ったのはたった20～30分のことだった。しかし日本での最高の思い出を作ることができた。おばあさんの幸せのお守りとシュンスケがくれたあめ玉の包み紙は、私の財布の中にいつも、いつまでも入っている。

日本での思い出

ソムネック・スィリスック
（行政グループ）

粉雪の舞う寒い日。寒さも、書籍やテレビの中でしか知らなかった雪も、私たちにとっては初体験だったが、多くの方々の心温まる歓迎に、寒さも不安も吹き飛んだ、記念すべき日本での第一日だった。翌日から始まった数々の講義。また、国会議事堂、都庁、上尾市役所、鹿児島県庁、等、日本の代表的な施設の見学は、地方行政官である私たちの興味をあますところなく満足させてくれた。と同時に、生涯にわたって二度とできないような、貴重な経験を与えてくれたのも事実だ。

合宿セミナーでたくさんの友人と語り明かした夜、ホストファミリーとの愛情あふれる触れ合い。さまざまな思いが走馬灯のように去来し、多くの人々との交流は、かけがえのない友情を芽生えさせ、私たちの心に素晴らしい思い出を刻み込んだ。

遠く離れていても心はひとつ。永遠の友情と変わらぬ思いを、新しい日本の家族と友人に誓いたい。

日本での28日間

ウッサニー・カンチャナルット
（地域振興グループ）

日本での28日間の感想を、青年招へい事業地域振興グループの参加青年の立場から述べたい。

青年招へい事業を通して、私たち地域振興グループ23人は、JICAによる研修および見学、世界青少年交流協会（WYVEA）による日本人青年との合宿セミナー、兵庫県の地域振興の見学、といった３つのプログラムを体験した。これらのプログラムはどれも私たちに日本の発展に関する知識を得るよい機会となった。また、主催してくださった団体の方々、コーディネーターなど関係者との友情、そして何よ

りもタイと日本の青年同士の友情を育むことができた。

私はさまざまな面で直接触れることのできた日本人の特質は、たいへん印象深いものだった。そういった印象についてグループのメンバーの意見をまとめてみた。

1．時間を厳守する、実行に際して合意事項に忠実である、さらに公共における行動など、集団行動において規律を厳しく守る。

2．自分自身および自分の属する団体の言動に忠実で真面目さを求め、なおかつ責任をもつといったことを重視する。

3．自分自身あるいは自分の所属グループおよび団体の名誉や評判を守る。

4．目標を打ち立て、その目標達成のためにすべての活動を実行しようと努力する。

最後に、私は日本人の思いやりと心と文化にも触れることができた。と同時に、活動に参加した者同士、友情を築きながら、忍耐と冷静さをもって事を運んでいこうとしており、その努力によって、全員が知識を習得し、友情を育むことができた。

以上のことに関し、JICAおよび関係機関の皆様に感謝申し上げる。

■アジア

■ヴィエトナム

私の愛

ドン・ハイ・バン
（経済グループ）

私は空を愛する
私は青い海を愛する
そして
私は終わりのない緑の森林を愛する
私は透き通った子供の目を愛する

まごころ
そして
夕暮れ
静かな公園の中で
孤独な老人は遠い目をして
何を考えているのか

明日、私たちが離れて行く
空がいつまでも青いことを祈ろう
地平線まで鶴がはばたけるように
波よ
甘い愛のささやきの詩を歌って

森林よ、若返らせて
私たちの大地を
子供たちよ、楽しく歌って
日暮れの公園にたたずむ老人のそばで

愛に満ちる心で
愛の世界を築き上げよう

広島

グェン・ビック・リ
（農業グループ）

私は10歳の誕生日に、両親から、日本と日本人について書かれた一冊の本をプレゼントされた。両親によると、私の誕生日の8月6日は、広島に原爆投

下された日であり、日本では特別な日だということだった。その時以来、日本、特に広島に対するさまざまな思いが私の中にを駆け巡った。

幸運なことに、私は今回の青年招へい事業に参加することができた。私の心の中で醸成され発酵されていた、日本と日本人を自分の目で見られることは、言葉では言い表せないほどの喜びだった。それにもまして感動したのは、私が広島を訪れた日は、広島に原爆が投下されてから54年目に当たり、しかも私の23回目の誕生日だったということだ。そして、グループの参加青年とコーディネーターの気遣いで、平和記念公園の原爆の子の像の前で、私の誕生祝いを行っていただいたことで、こうした感動はより一層増幅されたのだった。

原爆の子の像の周りの、無数の色鮮やかな千羽鶴の折り紙の前で、私は言葉に詰まり、胸がいっぱいになってしまった。私は世界五大陸に住む子供たちからの広島への思い、平和への願いがすべて聞こえるかのように思った。千羽鶴が計り知れない幸福を運んできてくれると信じる話には、本当に感動した。日本と世界の子供たちが、自分たちの気持ちの具体的な形としてこの原爆の子の像を建立したことに深い感謝の念を抱いた。そこから、私を含めたすべての人々にも、また次世代の人々にも真の深い気持ちが伝わることだろう。

私にとって、今回の日本訪問はとても印象的で、興味深いものだった。人類の記述された歴史での第三の千年紀にあたる21世紀を前にした日本での滞在は私の心の中に永遠に残るだろう。

日本の印象

チン・トー・オアイン
ズゥオン・ティ・カム・フゥオン
(ASEAN混成 公共・公益事業グループ)

私たち24人は、ASEAN混成 公共・公益事業グループの参加者として、インドネシア、ラオス、マレイシア、フィリピン、タイ、ヴィエトナムから、日本に来た。日本滞在中、下記のプログラムに参加することができた。

共通プログラムは、日本を初めて訪れた私たちにとって、たいへん有益なものだった。実際に視察旅行に出かける前の準備段階として、日本語や日本の文化、交通運輸関係の歴史などについて学ぶことができた。

分野別プログラムを通して、日本は社会基盤が整備され、運輸交通システムも、陸、海、空とバランスよく発展していることを目の当たりにし、また、関連部門の視察・見学や関係者との意見交換により、多くのことを知る機会を与えられた。日本は、限られた土地を有効に活用することにより社会基盤を整備し、その管理運営も素晴らしいことが分かった。

私たちグループの全員にとって、ホームステイは最も思い出深いものとなった。ホストファミリーを通じて、日本の人々はとても友好的で何事に対しても一生懸命であることを知った。私たちは、家族と日本語を練習したり、また共通プログラムで学んだ日本の風俗習慣と実際の家族のそれを比較することもできた。このようにして私たちは、今や〝第二の家族〟を日本に持った。

日本では同世代の人々と触れ合う機会は限られていたが、私たちが接した日本の若い人々は自信にあふれ、高学歴だった。そして誰もが、国を発展させるという強い意志をもっていた。少ない機会ながら、私たちはお互いに理解を深めたのだ。

日本の文化体験プログラムも大いに楽しんだ。急速な発展を続けている国にもかかわらず、独自の文化伝統を残していることがよく分かった。郡上八幡での郡上踊りは楽しい体験だった。

過密スケジュールのため、私たちは少し疲れていたが、岡山・広島への見学旅行は有意義なものだった。私たちが広島を訪れた日は、ちょうど54回目の原爆記念日で、平和記念公園、資料館の見学では、深く心を動かされた。日本の歩んできた道を、よく理解することができた。

最後になったが、このような機会を与えてくださったJICA、関係各機関に心からのお礼を申し上げる。青年招へい事業は、ASEAN各国の参加者にとって、たいへん有益なものだった。このプログラムを通じて私たちは、日本から多くのことを学んだだけでなく、同じグループの参加者との間にもよい関係を築くことができた。私たちが日本で学んだことを、それぞれの国で生かすことができることを望んでいる。

日本滞在とその印象

フイン・チ・ミ・ガン
（教育グループ）

日本に足を踏み入れてすぐに、高層ビル、高い煙突のある工場、数多くの高速道路が目に入り、日本は発展した近代的な国だという印象を受けた。

日本の冬は寒いというので、私は心の準備をしたが、透き通った空気に触れ、かえっていい気持ちになった。また日本の至るところにある花や緑の木々が私たちを安らかな気持ちにさせてくれた。

日本滞在中、現代的な建物から昔風の建築物、また長い年月を経て残された城、神社、寺など、多くの場所を見ることができた。それらは日本の伝統的かつ独自の造りをもっている。そして、美しく壮大な山、海などの自然の景色に心引かれた。

展示物が多く飾られたさまざまな博物館を見ることによって知識を広げることができたように思う。色鮮やかな着物の着付け体験、茶道の精神に触れたことは私にとって忘れられない出来事であり、興味深いものとして残っている。

日本の人たちは私たちヴィエトナム人に心温まる気遣いを示し、日本とヴィエトナムの親善にかかわるあらゆる面で積極的に協力してくれた。

日本の人たちとの生活、特にホームステイでその家族の一員となって生活したことは忘れることのできないものだ。もう一つの家族を体験できたのは、私にとって幸運なことだった。私は日本人から忍耐、勤勉、整理整頓、謙遜といったことを学んだ。

日本滞在は、私の心の奥底に記された思い出として、いつまでも残るだろう。

日本を再訪し、親しい友人と会う機会に恵まれることを望むとともに、日本とヴィエトナムの友好をいつまでも強く望んでいる。

日本についての感想

ウォン・コン・リン
（公務員グループ）

初めに、日本政府、JICA、JICE、プログラムコーディネーター、コーディネーターの方々に感謝の意を表したい。熱心な尽力により、私たちは日本人、特に日本青年についての理解が深まった。

私にとって強い印象は、日本青年の自立性だった。彼らは自分たちの手と頭で生活を自立させている。また彼らは若く、元気があってエネルギッシュだ。また、何でも知りたがるところもある、という印象だ。どうして知りたがるのか。答えは簡単だ。彼らはヴィエトナムについて、ヴィエトナム人について、ヴィエトナムの文化、政治について知りたがっているからだ。率直かつ開放的、というのが彼らの答えから受けた私の印象である。

私にとって最も強い思い出はホームステイだった。ホームステイの目的は、日本の生活に溶け込むことによって、日本人の暮らし、日本人について知ることだ。今私は、思い出の詰まったホストファミリーを思い出している。彼らは私の第二の家族であり、私の第二のお父さん、お母さん、お兄さん、妹だ。お母さんは、私を5歳か3歳の子供のようによく面倒を見てくれた。特別な子供として、よく食べる子供として可愛がってくれた。

これらが私の素直な感想だ。私の友人たちも、人情の厚い日本に来ることができ、寒さや言葉の壁を吹き飛ばしてしまうほど良い思い出ができたことを願っている。

ただ気になることが一つある。日本の友人は、ヴィエトナムについて、ヴィエトナム人についてあまり知らないのではないだろうか。それは私の国が貧しいからだろうか。それも事実だ。だからこそ、私たちヴィエトナム青年は大いに勉強に励んで、特に日本の友人からいろいろな経験を学んで、ヴィエトナムを日本のような〝奇跡の発展〟を遂げる国にするように努力しなければならないと思う。

■アジア

■バングラデシュ

まさかの友は真の友

バイズィット・コーラシッド・リアズ
(保健医療グループ)

私たちは、「すみません」という一言が、日本でどんなに大きな力をもっているかを知った。たとえ、ほかの日本語を何も知らなくても、「すみません」の一言で、日本滞在中のさまざまな困難が解消できるのだ。「すみません」と言うだけで、見知らぬ日本人に忍耐強く話を聞いてもらえ、目的地への行き方を教えてもらい、手助けしてもらうことができた。それはまた、日本国民の素晴らしい丁寧さとホスピタリティーの証明でもある。日本の人々の誠意ある態度が私たちバングラデシュ人とのコミュニケーションの壁を乗り越えさせてくれた。

日本が、私の海外旅行経験において最初の国となったのは、とても幸運だった。日本滞在中に準備されていたさまざまなことを通じて、私の五感は日本の自然、そして日本の文化に触れ、深い満足を覚えたのである。

しかし、〝科学は動作を促し、感情を駆逐する〟という言葉どおり、日本の人々は少しだけその感情を失いつつあるようだ。

〝人はその友で判断される〟と言われている。バングラデシュの人々にとって、日本との末永い、温かい友好関係を保っていくことは、大きな喜びにほかならない。

■アジア

■ブータン

私の夢の鏡、日本

ディチェン・ツェリン
(教育グループ)

私の夢の国〝日本〟を訪れ、私の夢は現実のものとなった。豊かな文化、体系的な教育制度を学びたいというのが、私の夢だった。

合宿セミナーには率直な気持ちで臨み、意見交換をしたり、お互いの文化、社会、教育に関する知識を深め合うことができた。教育制度や学校の日常活動についての議題も重要なものだった。

日本の教育制度、文化、モラルなどについての知識と体験は、教育委員会や学校、大学の視察、またホームステイの際に大いに役に立った。教育機関とその運営は、きめ細かな配慮のもとになされていた。この国の人々は、生活をより意味のあるものとするために、真の人間の価値が分かっているように思われた。

広島を訪れたことにより、世界平和を強調することは崇高なことであって、その逆に人間生活および自然の破壊は悪であるということを悟った。この宇宙に生きとし生けるものがすべて、自然でかつ有意義な生命を享受することができるように、世界の指導者は〝世界平和〟を彼らの座右の銘とすべきである。

京都では、先人の生活様式を反映した豊かな文化や伝統工芸が、細心の配慮のもとに保存されているのを見ることができた。

国の子供たちのために、新しい知識と体験でいっぱいになった思い出の箱を得ることができた今回の旅は、たいへん興味深く有意義なものであった。

■アジア

■インド

日出づる国

インドゥ・シャンカール
(教育グループ)

日出づる国、日本。海、山、温泉などの自然に恵まれ、愛情深く、やさしい人々の国。高度技術、観光、温泉で内外に広く知られている国。

日本の四季の変化は、その美しさで人々を魅了する。春には梅の花が咲き、夏には海辺でたくさんの人々が水上スポーツを楽しむ姿が見られる。秋になると、人々は芸術を鑑賞し、史跡を訪れ、寒い冬には温泉を楽しむことができる。

また、海、山、空、至るところが野外スポーツの舞台となっている。

茶道や祭りのような伝統的行事が何世代にもわたって変わることなく受け継がれ、先祖の心が伝えられている。

日本の人々にとって、教育は何にもまして大切なことである。最高の教育を行うために、子供たちにはハイテクを駆使した施設が与えられ、快適な学習環境が整っている。

日本はハイテクの国と言われ、その技術革新は、他に類を見ないほどで、あらゆる分野において、世界を驚かせている。日本は勤勉をモットーとし、機械と技術、文化と伝統、誠実さと時間厳守、そして愛にあふれ、心の温かい人々の国である。

最後になったが、日印両国の青年は、お互いの関係をさらに深いものと、素晴らしい文化、伝統をますます発展させていくよう努力を続けていかなければならない。

インドと日本の友好関係が末永く続きますように。

■アジア

■モルディヴ

青年招へい事業の成果

イスマイル・アリ
(教育グループ)

毎年、JICAによって行われている南西アジアの青年招へい事業を私たちはたいへん高く評価している。各国のいろいろな職業の人々を対象としたこのプログラムは、参加各国と日本の絆を強めることにも役立っている。

参加者は、日本に招かれ、関連分野の新しい技術や方法などを視察見学する。私たちは、教育分野の各層の専門家などと討論する機会を得ることができた。

日本はじめ、ブータンやモルディヴの教育分野の参加者と意見交換などをする機会にも恵まれた。また、各国参加者がそれぞれの国で取得した技術、情報などにも触れることができた。さらには、各国が抱えている教育分野におけるさまざまな問題も知ることができたことは、将来同じような問題に直面することになるかもしれない私たちにとって、たいへん有益だった。

私たちは、このプログラムを通じて新しい自分を発見し、自分の教育に関する経験を国の同僚と共有し、応用することによって、私たちの国々の教育水準の向上に貢献できるものと確信している。

南西アジアの青年招へい事業を担当してくださった各協力団体のご尽力により、素晴らしいプログラムとなり、さらに私たちは、それぞれ国を遠く離れていてもあたかも自国にいるかのようにくつろぐことができた。また、積極的なコーディネーターの方々のおかげで、計画どおりにプログラムを楽しむことができたことは幸いだった。

JICAをはじめ関係各位に心よりの感謝を申し上げたい。いつの日か、このようなプログラムで皆様に再びお目にかかることを楽しみにしている。

■アジア

■ネパール

新しい体験

パダム・バハドール・ライ
(教育グループ)

私たち9人は4週間の青年招へい事業に参加するために、9月22日に日本に到着した。私たちの研修対象分野は学校経営で、このプログラムはJICAによって計画されたものだ。

私たちは、日本の発展を見て驚いた。電気設備、教育や交通等々がどこでも整備されている。これは日本人が第二次大戦のあと短期間で自国を発展させたものであると確信した。また日本人は、礼儀正しく、協調性があり規律正しいのは、世界でも希に見るものであろうと感じた。時間に正確で、1分たりとも遅れることがない。

地方に行って、さらに驚きが増した。地方でも都市部と変わらないほど施設が整備されている。家々には電気があり、また山の麓の平坦地域に住んでいる人が多く、車で家まで行くことができる。ネパールでは、徒歩でしか行けない家がたくさんあるのだ。山は緑が多く、美しく見える。稲が植えてあったり、時々リンゴを植えてあるところも観察できた。

私たちのプログラムの大部分は、長野県の駒ヶ根で実施された。駒ヶ根は自然の美しいところだった。また駒ヶ根青年会議所や青年海外協力隊の訓練生、また駒ヶ根の人々は心から私たちを歓迎してくれ、私たちの研修や交流は成功裏に終わらせることができた。本当に皆様に感謝している。

視察プログラムで、私たちは〝のぞみ学園〟を訪れた。この学園は不登校児のための学園で、学校に戻る心構えができるまでここで生活することができる。学園長の生徒を見つめる視点は、私たちにとっては新しいものだった。のぞみ学園は、学校制度から生徒を見るのではなく、生徒の目を通して学校制度の分析を行っている。このことに私たちは非常に驚いた。

ホームステイは、食事をしたり、いろいろなところに行ったり、身振り手振りで家族と話をしたり、2日間を楽しく過ごした。それだけに、家族と別れる時は悲しかった。そして、涙を浮かべながら別れを告げた。

たくさんの人々がヒマラヤを見るためにネパールを訪れる。しかし、私たちは海を見たかったのだ。広島県で海を見ることができた。海の水をなめてみると、塩辛いということが分かった。そして水族館では、海の生き物を実際に見た。海での体験は素晴らしいものとなった。

最後に日本で出会った人々とこの事業に深く感謝します。

■アジア

■パキスタン

日本便り

クマール・S・アバシ
(公務員グループ)

何を見るのかも知らない
でも日本に行けるという期待に満ちていた
若くたくましい20人の青年たちが東京の街を群れをなして歩くのだろう

迎えの英子さんは言う
歌を歌ったりバレーボールをしたり
日本中のあれこれを何でも見るのだと

長いフライト、疲労困ぱい、おまけにまずい機内食

大阪を見て気分スッキリ
JICA大阪国際センターですべてが整う
居心地がよくて嫌なことも忘れ果て
おいしい食べ物におなかもいっぱい

日本語の授業も楽しみのうち、誰も逃げてはいかれない
講義は洞察にあふれ、うとうとする者もいるが熱心な質問も

大阪から新幹線でひとっ飛び
めまぐるしい東京、青年も大忙し
青年はここが気に入ったのに、また荷造りして行けという

説明ばかりのオリエンテーション
たまには愚痴でも言いたいような
楽しい訪問にいい人ばかり
きれいな物にはつい触ってみたくなる

佐島マリーナを忘れない
皆すぐに打ち解けて
ぶらぶらしている暇もない
こんなにパーフェクトにいくことがあるだろうか

次は高松
ここで少しは休めると思ったが
ゆったりスケジュールは1日だけ
部屋を追い出されてまた疲れ
我慢も限界
ホームステイはその夜始まる
いい顔を見せようと青年たちは緊張
ホストファミリーはもう来ているのに、先を争ってトイレに行列

家は素晴らしく緑にあふれ
家族は温かく、親しみにあふれ、家はきれい
なんと楽しい、でも短い時間
〝可愛い〟思い出に心きらめく

喜島さんは子羊を1匹2匹と数えて回る
誰も迷子にしたくない、それは全くそのとおり
それでも大変だとはめったに言わず

広島は少しの間でも素敵なところ
伝えたいのはただ「愚かになるな」
レーシングカーあり、戦争の恐怖あり
人生は美しい、平和でさえあれば

大阪に戻り少し安心
楽しいことを思い出し、嫌なことは忘れてしまう
おみやげを詰め、帰り支度
笑顔でいても心は悲しい

■アジア

■スリ・ランカ

日出づる国

プライヤンティ・サマンマル
(教育グループ)

日本に来ることは、私の長年の夢だった。というのも、日本は美しく、技術の進んだ国で、伝統文化を育み、心やさしい人々が住むところ、と聞いていたからだ。JICAが実施する青年招へい事業は、夢をかなえるべく私に道を示してくれた。すべてのプログラムの中で、最も興味深く私の心をつかんだのはホームステイだった。

ホストマザーが私を心から受け入れてくださった時、さまざまな不安や生活様式の違いは、涙に変わった。言葉の壁は、いつしか言葉では決して言い表せない深い感情、強い結びつきを示す架け橋へと変わっていった。折り紙や伝統的な琴の音に触れた時、私は国や人種間には違いはないと強く感じた。温かく通う赤い血には、決して違いはないのである。私たちはすべて一つの世界に属する人類なのである。人は誰も他人を傷つけるためにではなく、愛するために存在するのである。

ある肌寒い夕方、私は広島の弔いの鐘の音を聞いた。この悲しみに満ちた鐘の音が戦争に苦しんでいる国々を癒し、世界を素晴らしく住みよい場所とすることを望む。

青年招へい事業は、日本が日出づる国であることを証明した。日本が、世界、また宇宙にとって、平和と協調をもたらす輝ける太陽となりますように。

■アジア

■モンゴル

私の感じた日本

オユンチメグ・ドヴドイ
(地方行政官グループ)

JICAの青年招へい事業で、日本に来てから26日が過ぎた。たとえ短い期間であっても、日本という国、日本の人々に対する私の認識はどんどん豊かになり、日本の人々への尊敬の気持ちが生まれている。

綿密に練られたスケジュールに沿って、私たちは自らの専門分野と関連した諸機関を訪問し、専門を同じくする人々と知り合った。また多くの歴史・文化的に貴重な土地を訪れた。

特に印象深かったのは、福島県二本松市で過ごした8日間だった。二本松市での市長表敬、市政に関する講義の聴講、福島県自治研修センターの訪問は、私たちの今後の仕事にとってたいへん意義のあるものだった。

2泊3日のホームステイを通じて、日本の人々の習慣を知ることができた。ホームステイ中、モンゴルの旧正月をホストファミリーの方々と一緒に祝い、モンゴルの正月料理であるボーズを食べていると、まるで自分の家で過ごしているような気持ちになり、思わず涙がこぼれてしまった。

さらに、二本松の人々が土地の歴史や文化・伝統を大切にしていることに感動した。二本松市内の小学校では、子供たちが私たちのためにコンサートを催し、教室ではモンゴル語であいさつして、歌を歌ってくれた。子供たちは皆、モンゴルの子供たちと同じように賢く活発で、顔付きなどもそっくりだった。子供たちは私たちの心に大きな感動を残してくれた。

時間は短くても、私たちとともに過ごしてくださった方々は、これからも私たちの心の中にずっといてくれることだろう。

■アジア

■タジキスタン

21世紀へ向かう友情

ルフショナ・トヒロヴナ・オリモワ
(中央アジア混成 経済グループ)

私たちは約1カ月間、日出づる国、日本の経済・技術発展の実際の様子を自分の目で見て感動する機会を得た。企業を訪問し、内容豊かな講義を聴き、多くの博物館に足を運び、文化的な施設を視察するなかで、日本が今日、世界の政治や経済の舞台でリーダー的な地位を占める国の一つであるのは十分根拠のあることだということが分かった。日本は、高度な技術的発展と幾世紀もの間に積み重ねられた伝統が融合した国だった。

歴史的な視点からみれば、短い期間で、日本は鎖国のメンタリティーと決別し、世界に冠たる大国に変わったのだ。技術的な発展はほぼ完璧に近く、それでいながら、昔からの文化も、現代日本社会と調和している。

私たちは、日本の経済面の能力だけでなく、普通の日本の家庭の生活を知ることができた。ホームステイで、日本人は働き者であるだけではなく、気さくでお客好きな国民であることも分かった。

いくつかの都道府県を訪問し、日本の経済発展は中央だけのものではなく、バランスよく均等に全国に行き届いている事実に私は目を見張った。

私たちの研修プログラムは、充実していて内容豊かで実り多いものだった。

日本青年との交流、参加青年同士の友情を育む機会を与えてくださり、個々人に日本への窓を開けてくださったことに感謝している。今回得た友情は、21世紀に広がる友情であると信じる。日本の印象は、今では私たちの記憶の深い場所に刻まれ、日本の方々の温かさと聡明さはずっと私たちの心に残るだろう。実りある協力がこれからも続くことを願ってやまない。

日本政府、JICA、研修の運営スタッフの皆様に心より感謝している。

本当にありがとうございました。

■太平洋諸国・地域

■パプア・ニューギニア

パプア・ニューギニアより愛をこめて

パトリック・ギル
(教員グループ)

日本の社会は、私たちにとって、常に興味深いものだった。

私たちは、日本人については、本、テレビ、ビデオなどから、また、日本を訪れた人々の話からも、日出づる国についての知識を得た。それらの情報からも日本についての好奇心をそそられた。

1999年5月19日に日本に到着したが、私たちは見るものすべてに圧倒された。

日本は経済大国だが、日本が今日の地位に上ることができたのは、日本人の国民性によるものだろう。日本人の目的達成の方法は、私たちにとって神秘だ。私たちはけっして、現在の日本のようになることはできないだろう。しかし、青年招へい事業に参加して、日本社会のさまざまな局面、姿を見ることができ、多くのことを学んだ。

このプログラムのハイライトは、なんといってもホームステイだろう。ホームステイによって、日本人とじかに触れ合い、多くのことを学んだ。

JICA、JICE、日本経済青年協議会、小松市国際交流協会の皆様には、心より感謝している。日本で学んだことをパプア・ニューギニアで活かしていくため、これから精いっぱいの努力をしたいと思う。日本とパプア・ニューギニアの友好関係がますます深まることを願っている。

美しい日本

イバリ・クワル
（公務員グループ）

私は日本と呼ばれるところにいた
そこは、忙しく、自由な国
そう書物につづられている
なんと美しい国、日本

そこは、忙しく、自由な国
人々の言葉は一つ
みな同じ言葉を話す
なんと美しい国、日本

人々は愛らしく親切
彼らは歓迎のあいさつでそれを表す
毎日の生活に忙しい人々
なんと美しい国、日本

人々は愛らしく親切
あたり一面の美しい花々
誇りと文化を持つ
なんと美しい国、日本

■太平洋諸国・地域

■フィジー

友情の橋づくり

ヨリンダ・チャン
（公務員グループ）

日本。豊かな自然に恵まれ、仕事には勤勉で献身的な姿勢で臨む人々の国は、私にとってとても魅力ある国である。ここ50年間の目覚ましい経済発展と技術革新で知られるようになった成功の秘密を、青年招へい事業に参加して、１カ月という短い滞在の間に見いだそうと、私は決心した。

１カ月の日本滞在中、講義、分野別プログラム、見学旅行等を通して私の一番強い日本の印象は、国造り、総合的な経済と社会発展は国民による献身的な努力によるものだ、ということだった。

1995年１月の大震災で苦しんだ神戸市の実話は、組織的・体系的な努力がいかに素晴らしいかを示すよい例だ。震災後の急速な神戸市の再建、復興にわずか２年しかかからなかったことは、その成功が紛れもなく、真面目さとチームワークに依存する日本式の効率のよさを表している。日本人の仕事中毒も大いに寄与していると思うが、先天的に日本人は総意に基づき行動することに優れている民族ではないかと確信するようになった。生活がかなりゆっくりしていて、物事がゆっくりしたペースで進む太平洋から来てみると、仕事に対する日本人のかかわり方は、国民のために社会と経済発展でより強い国造りを進めるフィジーのような開発途上国にとっては、大切な教訓となる。

通常、電車の中で私が目にした無表情で疲れ気味の顔からは想像もできないほど、日本人は思いやりがあり、礼儀正しく、親切であることを知ったのは、うれしい驚きだった。

日常の「今日は寒いですね」という言葉も、ホストファミリーのお母さんに私が覚えたての日本語として使うと、たちまち一枚の暖かな毛布、電気毛布とヒーターが寝室に備えられる結果となることも、感動した。また、街で私が道を尋ねるたびに、通りすがりの人でさえ、手助けを惜しまず、ていねいな態度であることにも驚いた。

プログラムが終了するにあたり、フィジー公務員

グループを代表して、日本政府、JICA、JICE、㈶神戸国際協力交流センターに対して、美しい国を訪れ、その人々と社会への理解と認識を深める貴重な機会を与えてくださったことに感謝している。

帰国の際に持ち帰る幸せに満ちた思い出と短い滞在の間に築いた友情は、新たな架け橋を造った。その橋は、明石大橋よりも長く、日出づる国・日本から、新しいミレニアムの夜明けの最初の光が届くフィジーの浜辺まで、大きくつながり広がったのだ。

■太平洋諸国・地域

■パラオ

太平洋の目を通して見た日本

バーナデット・ベサベス
(太平洋混成 公務員グループ)

JICAの青年招へい事業により、太平洋諸国を代表する22人の公務員は、日本のさまざまな側面を経験することができた。このプログラムの目的は、開発途上国である太平洋諸国の未来の指導者たちが、日本で、自分の関連する職業分野の理解を深めることである。

28日間のプログラムは、11月24日から始まった。ホームステイの準備として日本語の授業に始まり、日本の政治機構に関する講義も受けた。これらの講義等で受けた私の主な印象は、日本人の礼儀正しさと和を尊ぶ精神である。

私たちは、国会議事堂、東京都庁、警視庁を訪れた。これらの訪問を通じ、日本ではさまざまな改革が進んでいるが、私の国では国民皆に公開される情報が、日本ではわずかな権力者に牛耳られている、ということを学んだ。

日本人青年との合宿セミナーでは、私たちが今日抱えている諸問題について討論した。私たちのグループでは、薬物問題と環境問題について話し合った。再び私は、日本人の参加青年の礼儀正しさと、対立を嫌う日本人的態度に驚くと同時に、苛立たしさを覚えた。というのも、私たちは自分の見解を述べる時、全く反対の姿勢で臨むからだ。私たち太平洋諸国の者にとって、日本人が互いの意見を分かつことを拒むように見える態度は、礼儀正しくはあっても、非常に苛立たしい行為であった。

プログラムの後半では、文化交流に焦点が当てられた。ホームステイで今まで学んだことを実践し、典型的な日本の家族の日常生活を知った。広島では非常に感激し、平和記念公園や原爆資料館では胸の詰まる思いをした。京都ではさまざまな神社仏閣を訪れ、宗教に触れる機会をもった。着物ショーを見学し、実際に着物を着ることもでき、素晴らしい時間を過ごした。

私たち22人は同じプログラムに参加したが、ある時は共通の、またある時は別のことを学んだ。とい

うのも、私たちは混成グループであり、皆それぞれ異なった文化背景をもっているからだ。この感じ方の違いは私たちにとって個々の見識を広めることとなった。確かに、個人によって日本への理解は違い、11カ国、11通りの目で日本を見たことになっただろう。私たちの人生は、この経験を生かし、より実りのあるものになることだろう。

皆さん、本当にありがとう。

■太平洋諸国・地域

■ソロモン諸島

平和の象徴・ヒロシマ

ネスター・カディ
(太平洋混成 教員グループ)

ヒロシマ。平和記念公園を訪れた何百万もの訪問者の目から流れ落ちた苦しみ、苦悶、愛と平和の涙。

ヒロシマよ。あなたは万人にとって平和の礎だ。

ヒロシマよ。あなたは人間の心の中に作られた核戦争の悲劇と想像を絶する恐怖を体験した。

ヒロシマ。苦しみと苦悩は、今もあなたを見た何百万もの人々の心の中に残っている。

ヒロシマよ。あなたは人類の歴史上、核戦争の最初の標的となり、激しい軍拡競争の記憶に耐えている。

ヒロシマ。原爆の存在の生き証人。

ヒロシマ。あなたは平和と全人類の調和の象徴だ。

平和を愛する人間として、私たちは核兵器の存在を許していいのか。

平和を愛する人間として、ヒロシマ・ナガサキが二度と繰り返されないことを見守ることは、私たちの責務ではないのか。

平和を愛する人類に、今世紀、二つの世界大戦の悲劇が起こった。

平和を愛する人類は、今も第三次世界大戦の危険性に直面している。

平和を愛する私たちは、いつかどこかで次のヒロシマ・ナガサキを見るかもしれない。

平和を愛する人間として、私たちに何ができるのだろうか。

すべての戦争は、人類の心の中に始まり、すべての戦争は人類の心の中に終焉する。

世界平和はヒロシマから始めなければならない。

さらに私たちのなすべきことは何だろう。

平和のための教育。

世界に変化をもたらす教育。

日本と太平洋諸国。

平和のために私たちは何を訴えるべきだろうか。

さあ、手を携えて平和のために立ち上がろう。

さあ、個々の国家の利害を捨てて行動を開始しよう。

さあ、ヒロシマとナガサキについて他の人々の意識を高めよう。

全人類が結束した社会を作り上げよう。

そして全人類が世界家族の一員になろう。

若い世代に文化・社会・経済・宗教の違いを超えた、愛と平和、団結を教えよう。

愛と平和の名において、私たちは団結した社会を築き上げよう。

日本、太平洋諸国、そして全世界の人々よ。

どうかヒロシマの精神の棺に刻まれた不滅の言葉として受け止めてほしい。

それはヒロシマの原爆犠牲者記念碑に刻まれているメッセージだ。

安らかに眠ってください。

過ちは繰り返しませんから。

■アフリカ

■ブルキナ・ファソ

日本への道のり

ジェレミー・セゼール・サワドゴ
(仏語圏 保健衛生グループ)

新しい太陽が極東から昇り
その輝く太陽光線で君の大地を優しく包む
太陽が君を呼ぶ
はるかな地からやってきたアフリカ青年を
そのぬくもりの中で君は育ち
その知識から君は学ぶだろう
立ち上がれ、そして一歩を踏み出すのだ
太陽は君に喜んで扉を開いてくれるだろう
太陽は君ならやっていける、とささやき
新しい道を照らしてくれるだろう
不安定なこの世の中で
太陽は君を支えてくれるだろう
その太陽の翼で君はある地に向かう
そこには偉大なる民と呼ばれる人々がいる
心に留めておきなさい
その太陽を「日本」と呼ぶことを

■アフリカ

■コートジボアール

青森でのホームステイ

コンスタンス・マリアム・コマラ・ディアバテ
(仏語圏 女性教員グループ)

私は、青年招へい事業の中にホームステイがあると知った時、震え上がってしまった。フランス語も英語も話せない日本人家庭で、一言も日本語が話せず、また分からずに一人ぼっちになってしまう自分を想像してしまったからだ。

日本に着いてから、日本語と日本文化に関する授業を何時間か受けたが、私の不安は収まらなかった。青森に着き、ホームステイ先の家庭の紹介を受けたのは、11月26日午後6時のことだった。私の不安は、ホストファミリーの家に着くまで募るばかりだった。

しかし、ホストファミリーの家での滞在はたいへんに気持ちよく、お互いにとてもなごやかに過ごすことができ、最後には、あれほどまでに不安を感じたことが恥ずかしくなった。滞在中、とても仲良くなれたので、別れる時は悲しくて泣いてしまった。これほどまでに素晴らしい時間は、誰もが経験するに値するものだと思う。書籍などを通してほかの人々の文化を学ぶことも大切だが、毎日の生活の一部としてそうした文化を体験することも別の意味で大切だと思う。私が経験したのはまさにこのことの実践だったのだ。

このような忘れ難い経験をすることができ、青森県青年海外協力協会、JICAにお礼を申し上げるとともに、日本の私たちの家族の皆様すべてに感謝を捧げる。

"日出づる国"への旅

クランシオ・マルグリット・コネエプーズ・ヨリビ
(仏語圏 理数科教員グループ)

私たちは、太陽の女神、天照大神の創りたもうた、この遠い国を一目見ることを夢見ていた。

私たちは、将軍と侍と、この国を一目見ることを夢見ていた。

私たちは、マツダ、トヨタ、ソニーなど、自動車や電子機器関連の高度な技術を誇るこの国を一目見ることを夢見ていた。

そして、実際の日本では、あらゆる分野で、現代性と伝統が寄り添い、調和し合っていた。

何世紀もの時を超えた寺院や城郭、

着物姿の優美な女性、

淡路島にかけられた4000メートルの明石海峡大橋、

人工島、

そびえ立つ摩天楼、

その足元に燦然とそそり立つ日本の誇る歴史的建造物、

これら、すべてに、目を奪われた。

広島の平和記念資料館を見て、日本人の痛みを理解した。

伝統と現代性が融合しているのを見て、日本や日本文化、日本人、仕事への情熱を理解した。

私たちの夢をかなえてくれたJICAに感謝する。

■アフリカ

■エリトリア

言わぬが花

ハイル・ビゼン・アブラハ
(英語圏 理数科教員グループ)

飛行機の車輪が地に着いた時、「日本の時刻はただ今3時20分です」とアナウンスが聞こえた。すぐに私たちは、時計の針を合わせた。刻み続ける時を日本に合わせるために。これが日本体験の始まりであった。

言わぬが花

蝶々たち
躍動する各国の色をまとい
威厳と誇りで輝き
次また次と日本に舞い下りた

蝶々たち
各地の花の蜜を舐めるため、旅をした
大阪、東京、佐島マリーナ、広島、京都
そして冒険の地、北海道
そこでは畑も山も川も姿を消し
天も大地も雪で覆われ
人々は〝空の間〟で生きていた

そこで蝶々たち
まさに天使に遭遇した
〝花も実もある〟
心の家族と

17色の蝶々たち
鼓動を合わせ一つとなった
彼らは歌いに歌った
〝コシ シゲレラ アフリカ〟
アフリカの神の御加護あらんことを

蝶々たち
日本の礼節を尊んだ
人々、文化、言葉、そして気候さえ
〝寒いですね〟
今や皆茶道をたしなみ、生け花をし、
折り紙で遊び、書道を学び
まさにジャパニーズアフリカン

蝶々たち〝大海を味わうには一滴で十分〟
と言うように、〝言わぬが花〟
この言葉は蝶々たちの日本滞在に贈られる

■アフリカ

■セイシェル

日本でのひと月

ジュード・ゲデオン
（英語圏 保健衛生グループ）

世界中のどんな所でも、日本という国は、自動車と電気製品のメーカーの名という形で知られている。今私は、そのイメージ以上の知識を得ることができた幸運を感じている。日本に滞在したひと月の間に、豊かな文化と独特の生活様式を持つ日本の人々、そして日本という国そのものを見聞できたことは思い出深い経験となった。

訪問したさまざまな施設や研究機関は、まさに私たちの職業分野に即したものだった。ただ、もっと時間があれば、更なる相互理解ができたのではないかと思う。

日本におけるプライマリー・ヘルス・ケア、および公衆衛生プログラムは私たちの国とは基本的に異なっていたが、それが成功裏に遂行されていることはたいへん印象深かった。

いろいろな交流や訪問を通して、日本文化と生活様式を体験できたことは、示唆に富み、とても啓蒙的であったことは否めない。任務遂行に誠実で、勤勉な日本の方々を称賛しない人はいないだろう。そしてその核をなすのが、ほかに類を見ない優しさ、寛大さだ。

ホームステイ前に抱いていた、未知なるものへの不安と心配は、全くの杞憂に終わった。私たち皆にとって、たいへん楽しいプログラムであり、静岡、そして日本滞在中、最も印象の強い経験となった。

私に文才があれば、この日本滞在についての本を書くことができただろう。

高品質、繊細さへのこだわり、華麗な着物、心躍る料理の数々、高速の新幹線、広島への旅、思わず声をあげてしまう博物館、目も眩む高度技術、そして基盤整備、などなど、挙げていけばきりのないことを、誰が忘れられるというのだろう。

思い出の数々は、私の心に深く刻まれている。帰国した後も、これらの思い出を家族、友人、そして同僚に伝えたいと思う。

さよなら日本、でもこれは永遠の別れではない。

■アフリカ

■ザンビア

アフリカより愛をこめて！

チオレ・サカラ・ムソリ
（英語圏 女性教員グループ）

2月2日、私はザンビアから青年招へい事業に参加するために来日した。寒くて、疲れていたが、期待に満ちていた。

東京は活気にあふれていた。東京に来ることができるとは、夢にも思っていなかった。しかし私は、確かに、銀座のホテルに泊まり、にぎやかな街路を歩いていた。

見学はどれも素晴らしかった。三輪田学園は、すべてが完璧で、最も印象に残った。小川高校では、生徒と一緒に作った料理、ブラスバンドの演奏、武道の観賞が楽しかった。京都商業高校では、そろばんやコンピューター、京商デパート（生徒たちが年1回、自分たちで商品を仕入れ、値付けして地域の人たちを対象に販売実習するもの）が興味深かった。上六部小学校では、初めて見る雪だるまに迎えられ、可愛い生徒たちに会えた。そこでは、生徒たちが白衣を着て、給食の配膳をするのを見て、なんだか劇に出てくるお医者様みたいだと思った。南山城養護学校では、行事を成功させようとする生徒たちの努力が伝わってきて、心打たれた。そして、精華南中学校の校庭を花で飾ろうとする努力も記憶に残るものだった。

熱海での経験は、宝物のようである。レクリエーションも、温泉も、サウナも、日本人青年も楽しかった。

京都は最高だった。特に福知山でのホームステイは、最初私は不安だったが、ホストファミリーである宮内さん一家に会うと、緊張がとけて、くつろぐことができた。着物を着て、茶道を体験するのは、とても楽しかった。

私はアフリカへ戻るが、私からの愛を、楽しい記憶と経験と交換に皆様のもとに置いていく。

■中南米

■チリ

愛、平和、そして友情

バシリア・アウグスタ・サエス・スクラボス
(中南米混成 教員グループ)

日本の皆様にはとてもお世話になり、そしていろいろなことを教えていただき、感謝している。おかげで、私たちは日本人について、日本の文化について、日本の国について多くのことを学ぶことができた。

日本国民は、とても意志が強く、親切で、簡単にはあきらめない国民だと思う。第二次世界大戦や原爆の投下で、苦しい時代を経験したにもかかわらず、廃虚のなかから不死鳥のように蘇った。このことは、私たちが見習わなければならないことだろう。

日本の皆様が温かく私たちを迎え、心を開いて私たちに接してくださったことを、絶対に忘れないだろう。

プログラムは素晴らしいもので、私たちは多くの知識を得た。その知識を有効に活用したいと思う。

愛と平和の名のもとに、一人の教師として自国の発展のために、もっと努力することを約束したい。

■中南米

■コスタ・リカ

飛行機、バス、JRと新幹線

アイリーン・ライファー・B
(中南米混成 社会福祉グループ)

私たちはラテンアメリカとカリブの20カ国から来た社会福祉に携わる青年28人だ。ミレニアムカントリーの文化、人々や社会福祉制度について学ぶために、日本に招へいされた。超多忙な1カ月で、見たり、学んだり、味わったり、経験したことを、今ようやく理解し始めたところだ。それでは、私たちの冒険談のほんの一部を紹介したい。

到着して、まず日本語の基礎を教室で学んでから、街頭で体験学習をした。日本の現実についても学んだが、一番役に立ったのはお箸で食べるコツを覚えたことだ。

最初の滞在地を後にして、初めて乗った弾丸列車・新幹線であっという間に着いた東京はまさにスピードの街だった。ここで社会福祉分野の知識を深め、日本の年金制度について学んだ。非常にカラフルな街並みに思わず目を丸くした。

週末は都会の雑踏から逃れ、神奈川県で日本人青年との意見交換や文化交流をする合宿セミナーに参加した。

熊本での1週間は、県知事への表敬訪問やホームステイを通じて、真の日本文化に触れることができた。阿蘇山に行った日は、あいにくの吹雪で外にも出られず車内でじっとしていた。お土産を買ってはその都度出したり入れたりして、小さな鞄をギュウギュウ詰めにする技は、一等賞をもらえるくらいすごいと思う。

最後の広島では、人間の破壊能力に対し疑問を抱いた。

地下鉄や鉄道システムに関しては、いろいろなエピソードがある。駅で迷子になった時、冗談を言いながらうろうろしているうちに時間がたち、やっとの思いで外へ出られたということもあった。

再び大阪国際センター(OSIC)に帰って来て、私は、理想を追求し、文化を懸命に共有し合い、過去に束縛されることなく発展してきた日本人に対し、自らが心底尊敬の念を抱いていることに気づいた。

一生に一度の貴重な体験をさせてくれたJICAに対し、そして私たちを導き、相談相手になり、甘えさせてくれたり、また叱ってくれた、高濱さえ子、氏本博美、竹迫和美の3人の友人に心から感謝の気持ちを伝えたいと思う。

勉強もしたし、笑ったり、泣いたりしたこともあったけれど、今は楽しく一緒に叫ぶことができる。

日本万歳！ イロイロアリガトウゴザイマス！

■サウディ・アラビア

■サウディ・アラビア

輝く惑星

サウード・ラシード・アル・アブドゥルラティーフ
（教育グループ）

夜空の星も、輝く惑星の前ではその光り輝く美しさをうらやむ。私たちと日本との出合いは、まさに輝く惑星のように、まばゆく美しい体験であった。曙光が月の光に取って代わり、出発の時を知らせ、木々の枝が風になびく。そして私たちの日本での一日が始まる。

青年招へい事業のもと、日本で過ごした日々のなんと興味深かったことだろう。日本の人々との出会い、温かいもてなし、真剣な討論、楽しい集い、くつろげる宿舎、快適な旅、すべて忘れることができない。

花園に分け入り花を摘み、露の玉の恵みを受ける。そんな甘美な機会を望まない人間はいない。私たちは、日本という美しい花園に招かれた。そしてこの花園で、私たちは、日本もサウディ・アラビアも共に世界平和を希求していることを確認した。

もちろん私たちもはこれからも、両国の絆がより一層深まるよう努めなければならない。サウディ・アラビアの伝統的価値観を日本の人々が尊重してくれることも、これからの青年招へい事業の成功には欠かせないことであろう。

友情と協力の精神を通じて、私たちは共に高い理想を追い求め、不滅の栄光を世界に示すことができる。

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

南国パワーをありがとう！

高橋　真由美
（中学校教諭）

初めてお会いするマレイシアの青年と、一度顔を合わせただけの日本の青年。そんなメンバーがいきなり、バスで一緒に千葉県まで小旅行。私は不安と緊張でいっぱいだったが、マレイシアの青年は最初からハイテンション。私たちもいつのまにか、マレイシアペースに乗せられて、言葉はおぼつかないものの、楽しいバス旅行となった。

一緒に過ごした中で私が一番強く感じたことは、「この人たちのパワーの源は何なのだろう」ということだった。マレイシアの青年は、最初から最後までずっとハイテンションだった。そして、人とのコミュニケーションを大切にし、相手に嫌な思いをさせまいと気遣う優しさに感動した。

マレイシアの青年と知り合うことができて、忙しさの中で忘れかけていた何かに気づけたように思う。

合宿セミナーを通じて得たもの

小川　菜穂子
（学生）

2泊3日のインドネシア・農業グループとの合宿セミナーに参加して、一番よかったと思ったのは、多くの人たちと知り合いになれたことだ。

インドネシアの青年との出会いは、私にも国際交流ができ、そして国際協力ができるかもしれないという自信を、私に与えてくれた。

今までは、道を聞かれた時くらいしか英語でコミュニケーションをしたことがなかった私だったが、インドネシアの青年と会って、気軽に話しかけてくださったことで、自然に会話をすることができた。それが自信につながったのだと思う。そして、もっと英語を話せるようになりたい、と強く思った。

日本の青年は、私にさまざまな生き方を教えてくれた。この合宿セミナーでさまざまな年齢、職業の人たちと出会い、その人たちと朝から夜遅くまでいろいろな話をすることができた。楽しく、有意義な2泊3日だった。合宿セミナーに参加できて、本当によかった、と思う。

フィリピンの方々に出会えて

林　泉子
（会社員）

好奇心とコミュニケーションの不安を抱えての合宿セミナー参加だったが、フィリピンの青年たちはとてもフレンドリーで物怖じせず、明るく私たちを迎えてくれた。そう、私たち日本人が迎え入れるはずが全く逆になってしまったのだ。

彼らの明るさとパワフルさ、アイデアと実行力は素晴らしい。彼らはいろいろと工夫する。彼らは踊りが大好きで、歓迎パーティーではBGMがなくてもキーボードのリズムを利用して踊りまくっていた。また、討論会の後のプレゼンテーションでは、絵や寸劇で討論内容をおもしろおかしく表現したりする。

彼らは、勤勉で好奇心旺盛だった。ちょっとした会話の中でも「日本語で何と言うの」と聞いては、またたくまに覚えて使ってしまうのだ。私たちは夕

ガログ語を何度聞いても忘れてしまうというのに。

合宿セミナーの、たった3日間で私たちは親しくなり、お互いの文化や慣習、考え方を共有し合うことができた。同じアジアの一員でいながら、近くの国についてこんなに何も知らなかったのかと感じると同時に、日本を見直すよい機会になった。この合宿セミナーをアジア交流の糸口として後々につないでいけたらと思っている。

優しき友へ、美しき友へ

水谷　健
（会社員）

ヴィエトナムの青年たちが日本での研修を終えて帰国してから、はや2週間がたった。先日、ヴィエトナムの青年たちとの合宿セミナーに参加した日本人青年たちが、とあるヴィエトナム料理店で再会した。たった3日間の合宿セミナーが、私たち日本人青年のこれからの人生を変えようとしている。そんなことあるわけがない、と最初は誰もが自分自身を疑った。しかし、日がたつにつれて、行ったこともないヴィエトナムへの思い、そして仲間たちへの連帯感が増していくのを実感しているのだ。ある者はメールでヴィエトナムの仲間と連絡を取り合っている。ある者は今年中に仲間たちの住むヴィエトナムの地に降り立とうとしている。

ヴィエトナム人青年たちの送別会で最後に歌った曲、「We are the world」。あの時、みんなで肩を組んで歌ったあの場面が、まるで昨日のことのように蘇ってくる。しかし、彼らと過ごした日々が思い出になることは決してない。彼らとの交流は、今始まったばかりで、これから永遠に続くのだから。

相互理解と国際協力

北島　知美
（会社員）

私は廃棄物分野の開発コンサルタントをしている。自国で都市環境保全に携わるASEANの青年との交流を通して、日常業務とは違う視点から環境問題について考えてみたい、と思ったのが、私が合宿セミナーに参加した動機である。

セミナーの初日には、綱引き、大縄跳び、盆踊りなどのレクリエーションを企画し、ASEAN青年に大いに喜んでもらった。もちろん、私たち日本人青年も童心に返って、心から楽しんだ。本来の目的を忘れてこんなに楽しんでしまっていいのだろうか、と思ったくらいだ。

しかし、初日のレクリエーションがあってこそ、翌日のディスカッションは非常にうまくいったのだと思う。「環境保全」という複雑で深刻なテーマについてフランクな雰囲気を保ちつつ、納得のいくまで活発な意見交換を行った。バックグラウンドの異なるASEAN6カ国と日本からなるグループ構成でこのような討議ができたのは、初日の交流会で、文化と言葉の違いを超えて心から共感し合えたからだと思う。相互理解に基づいた国際協力の重要性を、身をもって気づかされた。

合宿セミナーで知り合ったASEAN青年、日本青年とは、わずか3日間の付き合いとは思えないほど分かり合えた。彼らとの交流はこれからも長く続いていくと信じている。

日本もまだまだ発展途上

大村　哲司
（国家公務員）

不安と期待の3日間が始まった。

初日夜の交歓会の時、隣に座っていたアメリアさんの計らいで、スピーチの最初のところで各国青年たちの笑いをとることができた。初対面の人にここまで気を使ってくれる彼女に感謝している。

翌日のディスカッションでは、ASEAN青年には、「自国の発展は、自分たち次第」との考えが垣間見られた。同世代の日本人の多くは、恐らく、そんなことは考えてはいないだろう。自分自身の国での役割を考えさせられるディスカッションだった。

この合宿セミナーで、多くのことを得た。私は、この青年たちにまた会いたいという気持ちから、言葉をもっと勉強する決意をした。そして彼らの母国に行く心をも芽生えさせられたのだ。

We shall overcome

難波江　功二
（医師）

「We shall overcome」、彼らがよく口ずさんだ歌だ。

今回のバングラデシュの保健医療グループの青年は、20人のうち13人が国立病院で働く医師、というエリート集団だった。しかし、２年間の医療過疎地での勤務を経てきた彼らの視点は、あくまでも草の根であり、人々の苦悩をよく認識していた。

貧困、自然災害、すべてが絡み合い、バングラデシュの保健統計に悲しい数字を与えている。明日食べるものがない人間が、どうして健康のことなど考えられようか、と彼らは強く訴えた。

しかし、彼らは無力な悲観論者ではない。国土の３分の２以上が浸水した1998年の大洪水では、彼らが東奔西走し、ORS（経口補液）を配り歩いたことにより、下痢による死者は皆無に等しかった。また家族計画が功を奏し、ここ20年で出生率が３分の１に減少した。

彼らは多くの困難に直面しながらも、輝かしい実績を誇りにし、日々の仕事を淡々とこなしているのであろう。

この歌はそんな彼らによく似合う。

環境は違っても

浦　和美
（教員）

海を初めて見るブータン人、一方、美しい海に囲まれて生活しているモルディヴ人。そして日本人。

同じ時代に生まれながらも、全く異なる環境で育ってきた３カ国の若者が、３日間の合宿セミナーでどれだけ交流を深めることができるのかと、私は半信半疑で参加した。

しかし、彼らの人懐っこい笑顔と一生懸命話そうとする日本語で、すべての不安は消されてしまった。環境は違っても「互いに分かり合いたい。相手のよいところ少しでも身につけたい」という相手を認める気持ちさえあれば、国籍、言葉、文化の壁は簡単に超えられるものだと実感した。

そして、未来に向けて熱く語り合う一方で、自国の文化・伝統を誇りに思う姿に、私たち日本人が忘れていた大切なことを教わったような気がした。

知識は大切、出会いは素晴らしい

小林　克史
（教員）

私が得た事前の情報では、サウディ・アラビア側の参加者は「堅い人たち」ということだった。しかし、出会ってみれば、場の盛り上げ方がうまく、気配りも忘れない。いい教師だな、と感心した。合宿セミナーでは、お互いの主張、世界観や宗教観を押し付け合うことになるのではないかと危惧していたが、参加者はお互いのことを知ることに力点を置き、実りの多いものだった。

前もってサウディ・アラビアのことについて知識があったので、慣習の違いには驚かなかったが、早朝礼拝のための目覚まし時計の音や、酒のない宴会を共にすることは新鮮なものだった。

最終日の朝、同室のサウードさんがいれてくれたアラビアコーヒーは、日本の茶道にも通じるもてなしの心を感じた。あの香りと雰囲気は忘れることが

できない。

出会いというものは素晴らしい。

アフリカン・ダンス・ナイト

石澤　絵里
(看護婦)

私は、フランス語圏アフリカ諸国から日本へ来られた保健衛生分野で活躍している青年と、2泊3日の合宿セミナーで生活を共にした。日本とアフリカを合わせて、60人の青年が、歌い踊り続けた3日間と言ってもいいくらい、楽しい3日間だった。

私たち日本の青年も、アフリカ青年の熱気に巻き込まれ、つい自分も腰を振り踊りだしていたのだった。

また専門分野の討論では、日本とアフリカという、全く環境の違うところで働いているために、お互い納得のいかない討論もあったが、看護職として参加した私が最後に思ったのは、患者さんのことを思って働いているということは共通している、ということだった。

この合宿セミナーで感じたこと、学んだことが、今後、私たち青年の活躍の源となることを願っている。

アフリカ、バンザイ、日本バンザイ。

ミャンマー青年との合宿セミナーに参加して

西間木　公孝
(団体職員)

ミャンマーという国、あるいは言葉を聞いても頭に浮かぶものが何もなかった。また、いろいろな文献を探してみても情報があまりにも少なく、合宿セミナーに参加する準備段階で非常に苦労した。それに加えて、英語のできる方がほとんどいないという状況は、私たちの不安をいっそう募らせることになった。

ところが、ミャンマーの青年たちが来てからは、それらの不安は吹き飛んでしまった。言葉が通じず、議論の際に多少の苦労はあったが、逆に心からの国際交流ができたのではないかと思う。

ミャンマーの方は、とても友好的で、私たちに対しても気を使ってくれた。

教える対象は違っても、教師としての情熱は変わらない、そんな印象を受けた。

彼らが帰国した後も文通を通じて、互いの教育についての悩みを語り合っている。

この合宿セミナーで本当に貴重な体験と素晴らしい仲間ができたことが、私にとってなによりの財産になった。

ありがとうございました。

太平洋の島が近づいた

高橋　朝子
(教員)

初めての合宿セミナー参加で得たものは、2つだ。

まず、とても楽しい時間を共有した友人ができたことである。太平洋のさまざまな島から集まった青年と、日本中（青森から徳島）から集まった青年が、バレーボールをしたり、夜遅くまで語り合ったりして、得難い経験ができた。日本の青年もいろいろな職業・経験をもつ人たちで、非常に触発された。

次に、太平洋の国々が身近に感じられるようになったことだ。国によって、経済発展や教育制度が違っていても、そこで教員として働いている人は皆、いかに子供たちを育てたらいいか悩みながら、努力していることが分かった。

また、ぜひ参加したいと思う。

4. ホストファミリーの思い出

素敵な思い出

秋山　協子
（秋田県）

文化や食事等の大きな不安を抱え、わが家にとって初めてのホームステイの受け入れだった。

数日間、寝食を共にし、相手を知れば知るほど、マレイシア青年の素直な心と学ぶ心が伝わってくる。言葉の障害も身振り手振りでなんとか通じると、そこにお互いの信頼が生まれ、感動に変わっていく。これから伸びる青年たちの国境はなく、今後の活躍が期待される。

田舎での生活を通し、日本の一面を垣間見ていただけたのではないかと思う。玄関先から靴を脱いでしまって入ろうとしたハプニングは今も笑い話となる。

共に過ごした数日間で、大きな不安が素敵な思い出となった。今後も小さな触れ合いから国際理解・協力をしていきたい。

マレイシアの青年、ありがとう。

さわやかな笑顔に出合って

加藤　芳子
（茨城県）

フィリピーノには陽気な人が多い、と聞いていたが、確かにジョンさんはいつも笑顔だった。そのさわやかな笑顔と周りの人への心遣い、優しさ、そして深い教養と、一緒に過ごすうちに彼の魅力にひきつけられてしまった。

ジョンさんとの3日間を思う時、最も印象的だったのは、わが家からホテルに帰る時、私の母の手をとってあいさつしてもいいかと聞くので、「どうぞ」と答えたのだが、彼は母の手を大きな両手で包み込んでそのまま押し頂くようにして額につけて祈ってくれたことだ。その敬謙な姿に思わず目頭が熱くなった。

家族を愛し、自然の恵みに感謝する彼らの心の豊かさに感動した日々だった。いつの日か、お父さんになったジョンさんに会いに、サマル島に旅したいと思う今日このごろである。

ホストマザーとして

芳賀　雅子
（北海道）

インドネシアからのお客様を迎えて、私たち一家3人、とても楽しい時を過ごした。

ミミさんは1歳4カ月の娘さんをもつ素敵な女性だった。私の娘の学校のレクリエーションで、150人の親子と一緒に電車に乗ってピクニックに行く機会をもった。小学2年生の子供たち70人は、ミミさんの存在が気になってしかたがない。しかし、話しかける勇気もなく、私の横に来ては、「おばさん、あの人だれ？」と私の顔も見ずに聞く。私の顔を見たら、私の横にいるミミさんと目が合ってしまうのだ。

昼食の前に、ミミさんを皆に紹介した。ここで一気に子供たちの好奇心は爆発し、たくさんの質問があった。

ミミさんとの短い交流の中で、彼女は日本の文化に驚き、その驚く顔に私も驚き、ホームステイが始

まったばかりのころのことを思い出していた。たとえば、私がマーケットでマグロの刺し身を試食するのを見たミミさんの驚きの顔、ミミさんが入浴した後、私が入ろうとしてお風呂の水が流されていたのを見た時の私の驚き（私が日本のお風呂の説明を忘れていた）、等々。

でもこれが、ホストマザーの醍醐味なのだろう。

たくさんの思い出をありがとう、ミミさん。

ヴィエトナム青年のホームステイ

溝川　隆広
（和歌山）

ヴィエトナムという国は、テレビやラジオなどでよく見たり聞いたりしている国だが、実際は全く知らない国だった。唯一知っていることといえば、戦争があった国だということくらいだった。そのため私は、少しだけ、ヴィエトナムの言葉や生活習慣を調べたり、勉強した。

わが家に来たヴィエトナム青年は、ランさんという女性だった。彼女は高校の教師で、とても礼儀正しく、片言の日本語で私たち家族に一生懸命話しかけようとしてくれた。

私と妻はコミュニケーションをとることがなかなかできなかったのに、7歳と6歳になる子供たちは、以前から知っていたかのように、なれなれしく話したりしているので、驚いた。それを見て、私たち大人は自分でも気づかないうちに必要以上に構えていたんだ、ということに気づいた。生まれる国や話す言葉が違っても、同じ人間なのだから精いっぱい心からおもてなしすれば相手に通じるんだと思った。

楽しかった、というより、ホームステイした方の生まれ育った国のいろいろなことが分かって、たいへん勉強になり、いい経験をさせていただいた。

これからもこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思っている。

ラオス青年を迎えて

山崎　哲人
（高知県）

ラオスの青年、ウォンさんがホームステイしている間、息子たちは楽器で音楽を習ったり、ミニバスケットでのスポーツ、家庭用のサッカーゲームで交流し、家族とは海のきれいな高知の桂浜で遊んだり、イルカのショーを見たりして、楽しく過ごした。

また、彼はラオスで稲作指導員をしているということなので、わが家の田や和紙の原料を見せると、興味深そうに手で触ったり、コメの収量などを聞いていた。

高知市でのお別れ会の時、彼が通訳の方を連れて来て、3日間の感謝の言葉と、息子たちのことを通訳の方の言葉で「いとおしい」と言ってくれたことに、感激した。

短い期間だったが、息子たちや、普段おとなしい父が積極的にかかわってくれ、言葉はあまり通じなかったけれど、ウォンさんの優しい人柄に触れ、人との触れ合いの大切さを改めて教えられたことは、とても意義ある3日間だった。

家族皆で楽しい夏の思い出づくりができた。

ホームステイを終えて

久保田　えつこ
（佐賀県）

今回初めてホームステイを受け入れるということで、私自身も家族もその日を迎えるまで、不安と緊張でいっぱいだった。

南西アジアからのお客様なので、どんな方かしらと、余計に不安だったのかもしれない。

言葉の壁はあったものの、接してみれば、私たちと何一つ変わらず、心が通い合うものだった。私たちの当たり前の日々の生活が、モルディヴから来た彼女たちにはリッチで刺激的なようだった。日ごろの生活自体に感謝する気持ちを忘れ、欲望ばかりを追いかけている私たちの今を、恥ずかしくも思えた。

〝出会いはチャンス〟だと思える。彼女たちとの出会いによって、私たちの何かが動き出しているように思えてならない。きっとそれは、すぐに答えの出ない明日からの私たちの生き方に現れてくることだろう。

このチャンスを無駄にせず、思いやりの心、理解し合える気持ちを学ばせていただいたことに、心より感謝します。ありがとうございました。

デワキ・アエールさん、ありがとう

小池　律子
（長野県）

「ナマステ」

そう言ってあいさつしれてくれたデワキ・アエールさんの笑顔を見た時、今までの不安が一気に消えてしまった。正直言って、それまでは言葉はうまく通じるか、食べるものはどうかしら、と不安だった。彼女もきっと、全く知らない家庭に来るという不安は、私たち以上にあったと思う。

夕食をとりながら、私のぎこちない英語、本を見ながらのネパール語、子供の通訳を交えて、話の内容も少しずつ分かってきた。

遠いネパールにいる家族のこと、学校のこと、村から８時間歩いてバスに乗り、22時間かけてカトマンドゥに来たことなど、今のクルマ社会の日本では思いもよらない話にただただびっくりするばかりだった。

彼女の子供の話になると、母親の顔になって、とてもうれしそうに、子供の名前、年齢などを語ってくれ、ネパールを離れる時には泣かれてしまった、と言っていた。

話したいこと、聞きたいこと、まだまだいっぱいあったが、私の拙い英語やネパール語では思い通りにはならず、自分のふがいなさを感じた。あれもこれもとハードなスケジュールを立ててしまい、デワキさんはかなり疲れた様子だった。もう少し、気遣ってあげればよかった、と思っている。

２泊３日はあっという間に過ぎ、別れる時は生涯の友人と別れるような気持ちになり、お互いに抱き合って泣いてしまった。

かけがえのない時間をくださってありがとう。

また会う日まで、マギーさん！

阪井　千代子
（大阪府）

ホストファミリーを経験して、アフリカ諸国を知るよい機会に恵まれ、感動の多い交流だった。マギーさんを通して、コートジボアールの風土や生活環境を知ることができた。また、家族の話を聞いたり、とてもおいしいコートジボアールの家庭料理を作ってもらった。今後、マギーさんを思い出しながら作ってみたい。

ホームステイから１週間後、交流パーティーでの再会、マギーさんの友達も紹介され、わが子のようにいとおしく感じたマギーさんだった。このまま別れるのは名残惜しく、私はJICAの大阪国際センターを訪ねた。最寄駅まで見送られ、再会を約束し、涙の別れをしたのだった。

が、翌日、また再会できたのだ。実はマギーさんの友達のホスト宅に招待されて、そこは偶然にも私の友人宅であり、マギーさんとの4度目の再会は驚きと感激で、涙があふれた。コミュニケーションは真心だと再認識した。

将来、マギーさんの家を訪問するのが楽しみである。

インドから来たブラザー

林　敏夫
（北海道）

ホームステイという言葉は耳にしていたが、実際にホストファミリーになったのは今回が初めてで、やること聞くことすべてが初体験だった。家族全員が蜂の巣をつついたような、それは大騒ぎをしていたのだ。

一番悩んだのは、食文化、生活習慣、言葉が違うことだった。その解決策が見つからないまま、ダスさんを迎える日が来てしまった。しかし、それらも、

ダスさんの「はじめまして、私はダスと申します。よろしく」という言葉で、解消した。

それ以来、言葉の壁は苦にならなくなり、父は辞書を片手に話し、母は青森なまりの日本語で通し、私は知っている英語の単語を使い、3日間を過ごすことができた。

ダスさんは文化の違いを乗り越え、3日間で2つの国を一気に近づけ、私たちもアジアの中の一員であることを教えてくれた。

ダスさんの住んでいる地域では、冷蔵庫の中でしか体験できないような北海道のこの季節に、楽しくインドの文化に触れることができた。また、ダスさんにとって日本の北国での3日間の生活はどうだったのだろうか。

私のことをブラザーと呼んでもらい、インドと日本は遠くても近い国になった。この体験をもとに、もっと世界のブラザーと知り合いになりたいと思う。

南太平洋の風のように

武永　佳子
(山口県)

わが家に着いた途端、「パスポートの入ったかばんがない」と言って、JICAの方々を走らせてしまったジャネット。

次の朝、「私はこれでいいから」と持ってきたカップラーメンをおいしそうに食べてケロリとしている。

おかげで、私の肩の力は抜け、あっという間に本音で話し合えるようになった。

忘年会や接待ゴルフで忙しい夫の姿に、〝日本経済を支えるサラリーマンだ〟と、東京で習った日本社会のことを説明してくれたり、インターネットを使って母国ミクロネシアの紹介を見せてくれたりした。

「ご主人に電子メールを送ったら？」と言うと、本当にうれしそうだった。若い女性4人を招いての夕食では、ワインボトルを抱えて上機嫌で、〝動物占い〟で夜更けまで盛り上がった。

楽しい思い出を残して風のように去った彼女からは、既に3通の電子メールが届いた。

「お母さんの焼きソバが懐かしい」、に苦笑している。

モンゴル人を受け入れて

本田　尚美
(福島県)

ホームステイの受け入れは、わが家にとって初めての経験であり、一大騒動だった。「おまえが引き受けたんだから、自分で何とかしろ」などと言っていた父は、ドライブに行って海を見せると張り切り、「私は貽いだけ」と言っていた母も、餅を食べてもらおうかしら、などとはしゃぎだし、祖母にいたっては、モンゴル語を勉強し始める始末。

実のところ、英語も通じないことを知った、私一人だけが困惑していた。しかし、言葉の壁はすぐに乗り越えられた。モンゴル語、日本語、英語の交じった、身振り手振りのオーバーアクション、さらに歌まで入っての大騒ぎだった。

家族が一人増えたような感覚で、本当に楽しい3日間を過ごすことができた。

今回のホームステイ受け入れによって、国際交流に少しでも貢献できたのではないかと思うと同時に、家族の絆を深めることもできたように思う。

JICA関係機関連絡先

★JICA国内事業部研修業務課
〒151-8558 東京都渋谷区代々木2-1-1
新宿マインズタワー(9階)
TEL 03(5352)5401～5403
FAX 03(5352)5018

★JICA国内支部・センター

北海道国際センター(札幌) 〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25
TEL 011(866)8333
FAX 011(866)8382

北海道国際センター(帯広) 〒080-2470 北海道帯広市西20条南6-1-2
TEL 0155(35)1210
FAX 0155(36)2582

東北支部 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1
仙台第一生命タワービル15階
TEL 022(223)5151(代)
FAX 022(227)3090

二本松青年海外協力隊訓練所 〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
TEL 0243(24)3200(代)
FAX 0243(24)3214

筑波国際センター 〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6
TEL 0298(38)1111(代)
FAX 0298(38)1119

関東支部 〒336-0002 埼玉県浦和市北浦和4-5-5
北浦和大栄ビル7階
TEL 048(834)7770～4
FAX 048(834)7775

駒ケ根青年海外協力隊訓練所 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL 0265(82)6151(代)
FAX 0265(82)5336

北陸支部 〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-3
リファーレビル3階
TEL 076(233)5931(代)
FAX 076(233)5959

中部国際センター 〒460-0074 愛知県名古屋市名東区亀の井2-73
TEL 052(702)1391(代)
FAX 052(702)1397

大阪国際センター 〒567-0058 大阪府茨木市西豊川町25-1
TEL 0726(41)6900(代)
FAX 0726(41)6910

中国国際センター 〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1
TEL 0824(21)6300(代)
FAX 0824(20)8082

四国支部 〒760-0050 香川県高松市亀井町5-1
百十四ビル13階
TEL 087(833)0901(代)
FAX 087(837)0747

九州国際センター 〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1
TEL 093(671)6311(代)
FAX 093(663)1350

沖縄国際センター 〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1
TEL 098(876)6000(代)
FAX 098(876)6014

★JICA Headquarters
Training and Youth Invitation Division,
Domestic Partnership and Training Department
SHINJUKU MAYNDS TOWER
1-1, Yoyogi 2-chome, Shibuya-ku,
Tokyo 151-8558

★JICA Branch Offices and International Centres in Japan

Hokkaido International Centre (Sapporo)
Minami 4-25, Hondori-16 chome, Shiroishi-ku,
Sapporo-shi, Hokkaido 003-0026

Hokkaido International Centre (Obihiro)
Minami 6-1-2, Nashi-20 Jo, Obihiro-shi,
Hokkaido 080-2470

Tohoku Branch Office
Sendai Daiichiseimei Tower Bldg., 15F
4-6-1, Ichiban-cho, Aoba-ku, Sendai-shi,
Miyagi 980-0811

Nihonmatsu Training Centre
4-2, Nagata-Azanagasaka, Nihonmatsu-shi,
Fukushima 964-8558

Tsukuba International Centre
3-6, Koyadai, Tsukuba-shi,
Ibaraki 305-0074

Kanto Branch Office
Kita-urawa Daiei Bldg., 7F
4-5-5, Kita-urawa, Urawa-shi,
Saitama 336-0002

Komagane Training Centre
15, Akaho, Komagane-shi,
Nagano 399-4117

Hokuriku Branch Office
Refare Bldg., 3F
1-5-3, Hon-machi, Kanazawa-shi,
Ishikawa 920-0853

Chubu International Centre
2-73, Kamenoi, Meito-ku, Nagoya-shi,
Aichi 460-0074

Osaka International Centre
25-1, Nishi-toyokawa-cho, Ibaraki-shi,
Osaka 567-0058

Chugoku International Centre
3-3-1, Kagamiyama, Higashi-hiroshima-shi,
Hiroshima 739-0046

Shikoku Branch Office
114 Bldg., 13 F
5-1, Kamei-cho, Takamatsu-shi,
Kagawa 760-0050

Kyushu International Centre
2-2-1, Hirano, Yahata-higashi-ku,
Kita-kyushu-shi, Fukuoka 805-8505

Okinawa International Centre
1143-1, Aza Maeda, Urasoe-shi,
Okinawa 901-2552

★JICA在外事務所

JICA Cambodia Office
House No. 36, Street No. 184, Sangkat Phsar Thmei 3, Khan Don Penh, Phnom Penh, Cambodia
TEL 855-23-211673, 211674

JICA Indonesia Office
Plaza BII Tower II 27 Floor Jl. MH. Thamrin 51, Jakarta 10350, Indonesia
TEL 62-21-390-7533

JICA Laos Office
Home No. 351, Naxay Village Unit 24, Wat Sisangvone Road, Saysettha District, Vientiane, Lao P. D. R.
TEL 856-21-414387, 412694, 412695

JICA Malaysia Office
Suite 29.03, Level 29, Menara Lion, 165, Jalan Ampang, 50450 Kuala Lumpur, Malaysia
TEL 60-3-21668900

JICA Myanmar Office
No. 73, University Avenue, Yangon, Myanmar
TEL 95-1-527228, 525860

JICA Philippines Office
12th Floor, Pacific Star Building, Senator Gil J. Puyat Avenue Corner Makati Avenue, Makati City, Philippines
TEL 63-2-893-3081

JICA Thailand Office
1674/1 New Petchburi Road, Bangkok 10320, Thailand
TEL 66-2-251-1655

JICA Viet Nam Office
11th Floor, Office Tower, Daeha Business Center, 360 Kim Ma Street, Ba Dinh District, Hanoi, Viet Nam
TEL 84-4-8315005～8

JICA Bangladesh Office
E/8-A, Rokeya, Sharani, Sher-e-Bangla Nagar, Dhaka-1207, Bangladesh
IDB-Bangladesh Islamic Solidarity Educational Wakf, 12th Floor Bangladesh
TEL 880-2-9126315, 9132535

JICA India Office
2nd Floor, DLF Centre, Sansad Marg (Parliament Street) New Delhi-110001, India
TEL 91-11-331-1990～4

JICA Mongolia Office
Zaluuchuudin Street 24, Ulaanbaatar, Mongolia
TEL 976-1-325939, 312393

JICA Nepal Office
Tripureshwar, Kathmandu, Napal
TEL 977-1-260236, 260199

JICA Pakistan Office
House No. 1, St. No. 61, F-6/3, Islamabad, Pakistan
TEL 92-51-829473～8

JICA Sri Lanka Office
16/2, Gregory's Road, Colombo 7, Sri Lanka
TEL 94-1-681248

JICA Uzbekistan Office
Dom 18, Sadikova Str., 700052, Tashkent, Uzbekistan
TEL 998-71-1691475～76

JICA Papua New Guinea Office
Shop 7A, Second Floor, Garden City, Lot 4, Section 18, Angau Drive, Boroko, N. C. D., Papua New Guinea
TEL 675-325-1699, 1368

JICA Fiji Office
7th Floor, Dominion House, Suva, Fiji
TEL 679-302522, 301829

JICA Samoa Office
Mulivai, Apia, Samoa
TEL 685-22-572, 139

JICA Côte d'Ivoire Office
(JICA en Côte d'Ivoire)
7 Boulevard Roume, Abidjan, Côte d'Ivoire
TEL 225-20222290, 20222203

JICA Egypt Office
World Trade Center 10th Floor
1191 Corniche El Nile St. Boulak, Cairo, Egypt
TEL 20-2-5748240～2

JICA Ethiopia Office
Woreda 17, Kebere 17, House No. 222, Addis Ababa, Ethiopia
TEL 251-1-615880～3

JICA Ghana Office
Valco Trust House, Castle Road, Ridge, Accra, Ghana
TEL 233-21-238419～22

JICA Kenya Office
The Rahimtulla Tower 10th and 11th, Upper Hill Road, Nairobi, Kenya
TEL 254-2-724121～4, 724877

JICA Malawi Office
Area 13-Plots 5 and 6, Development House Ground Floor, Lilongwe 3, Malawi
TEL 265-781644, 781945

JICA Morocco Office
(Bureau de la JICA au Maroc)
No. 69 bis, rue Tensift, Agdal, Rabat, Maroc
TEL 212-7-686391～94

JICA Nigeria Office
Cowrie House, 27/29 Adeyemo Alakija Street, Victoria Island, Lagos, Nigeria
TEL 234-262-0086

JICA Senegal Office
(Bureau de la JICA au Sénégal)
Immeuble SDIH, 3 Place de l'Independance, Dakar, Sénégal
TEL 221-821-33-66, 821-69-19

JICA South Africa Office
1st Floor, Bank Forum Building Fehrsen & Bronkhorst Streets, New Muckleneuk, Pretoria, Republic of South Africa
TEL 27-12-346-4493, 4528, 4896

JICA Tanzania Office
Plot No. 1033/1, Mindu Street Upanga Dar es Salaam, Tanzania
TEL 255-51-113727~30

JICA Tunisia Office
(Bureau de la JICA en Tunisie)
18, Rue Ahmed Rami 1002 Tunis-Belvédère, Tunisie
TEL 216-1-786386, 785295

JICA Zambia Office
Plot No. 59B Mutandwa Road, Roma, Lusaka, Zambia
TEL 260-1-291075, 291433

JICA Zimbabwe Office
Southampton Life Centre, 8th Floor, 77 Jason Moyo Avenue, Harare, Zimbabwe
TEL 263-4-252500~02

JICA Argentine Office
(Agencia de Cooperacion Internacional del Japon)
Dr. Ricardo Rojas 401, Piso 8, 1001-Buenos Aires, Argentina
TEL 54-11-4313-8901

JICA Bolivia Office
(Agencia de Cooperacion Internacional del Japon en Bolivia)
Calle Batallon Colorados N° 42, La Paz, Bolivia
TEL 591-2-441276, 441605, 441124

JICA Brazil Office
(Escritorio Anexo da Embaixada do Japao)
SCS Quadra 01, Bloco F, Ed. Camargo Correa, 12° Andar, Brasilia, D. F. Brasil
TEL 55-61-321-6465, 9723

JICA Chile Office
(Agencia de Cooperacion Internacional del Japon)
Av. Andres Bello 2777, Edificio de la Industria Piso 27, of. 2701, Las Condes, Santiago, Chile
TEL 56-2-203-3095~8

JICA Colombia Office
(Agencia de Cooperacion Internacional del Japon)
Calle 72, No. 10-07, Piso 7, Edificio Colmena Santa Fe de Bogota, Colombia
TEL 57-1-345-0055

JICA Dominican Office
(Agencia de Cooperacion Internacional del Japon)
Av. Bolivar No. 818, Santo Domingo, Republica Dominicana
TEL 1-809-682-4703

JICA Honduras Office
(Agencia de Cooperacion Internacional del Japon)
Calle Santa Rosa, Colonia Lomas del Mayab, Casa No. 1346 Tegucigalpa, M. D. C., Honduras Central America
TEL 504-232-6727, 6737

JICA Mexico Office
Ejercito Nacional #418-201 Col. Chapultepec Morales Mexico, D. F., C. P. 11570
TEL 52-5-5452476, 5452512

JICA Panama Office
(Agencia de Cooperacion Internacional del Japon en Panama)
Edificio World Trade Center Panama, Piso 4, Calle 53 E, Urbanización Marbella, Ciudad de Panamá, República de Panamá
TEL 507-264-9669, 9406

JICA Paraguay Office
(Agencia de Cooperacion Internacional del Japon Oficina Exterior en Paraguay)
Presidente Franco y Ayolas, Edificio Ayfra 11° Piso, Asuncion, Republica del Paraguay
TEL 595-21-491154~7, 490651, 492692, 495234

JICA Peru Office
(Agencia de Cooperacion Internacional del Japon)
Av. Angamos Oeste 1381, Santa Cruz, Miraflores, Lima, Perú
TEL 51-1-221-2433

JICA Saudi Arabia Office
Economic Section, Annex of Japanese Embassy Block No. 55, Amer Ibn Aws Street, Al-Raed District, Riyadh, Saudi Arabia
TEL 996-1-482-5611

JICA France Office
(Bureau de JICA en France)
8, rue Sainte-Anne, 75001 Paris, France
TEL 33-1-40200421

JICA U. K. Office
45 Old Bond St., London W1X 4HS, U. K.
TEL 44-20-7493-0045

JICA/JOCV Bhutan Office
Doybum Lam/Memorial Chorten, Thimphu, Bhutan
TEL 975-2-322030, 323218

JICA/JOCV El Salvador Office
(Oficina Residente Representativa de JICA/JOCV)
Calle del Mirador No. 15-288, Colonia Escalón,
San Salvador, El Salvador, C. A.
TEL 503-2630940, 2640739

JICA/JOCV Guatemala Office
(Oficina de Voluntarios Japoneses)
18 Calle, 5-56 Zona 10 Guatemala Edificio
Unicentro 12 Nivel Oficina 1203, Guatemala
TEL 502-3661919, 3661915~18

JICA/JOCV Costa Rica Office
Avenida 16 y Calle 29, del Parque de los
Mangos, 100mts. Sur, 100mts. Oeste.
Urbanización Montealegre.
San José, Costa Rica A. C.
TEL 506-2-253114, 240540

JICA/JOCV Jamaica Office
8th Floor, Island Life Building 6 St. Lucia
Avenue Kingston 5, Jamaica (W. I.)
TEL 1-876-9294069, 9600021, 9080847, 9080848

JICA/JOCV Nicaragua Office
Hospital Militar, 1 Cuadra al Lago, 1 y 1/2
Cuadra Abajo, Barrio Bolonia Managua,
Nicaragua
TEL 505-2668323, 2668347

JICA/JOCV Vanuatu Office
2nd Floor, Hong Kong & New Zealand House,
Port Vila, Vanuatu
TEL 678-23546, 24251

JICA/JOCV Solomon Office
Lot No. 23, Common Wealth St. Honiara,
Solomon Islands
TEL 677-22615, 21110

JICA/JOCV Tonga Office
3rd Floor, National Reserve Bank of Tonga
Building, Salote Road, Fasi, Nuku'alofa,
Kingdom of Tonga
TEL 676-23072, 24361

JICA/JOCV Palau Office
George Ngirarsaol Commercial Building,
Koror, Palau 96940
TEL 680-488-5373, 488-5370

JICA/JOCV FSM Office
Dolonier, Nett, Pohnpei 96941,
The Federated States of Micronesia
TEL 691-320-5350, 5439

JICA/JOCV Niger Office
(Bureau du JICA/JOCV)
8 rue des Lac, Ancien Plateau, Niamey, Niger
TEL 227-735569, 732994

JICA/JOCV Botswana Office
1st Floor, Plots 896/897 Kaunda Road,
Gaborone, Botswana
TEL 267-312176

JOCV Maldives Office
Radiumge-Aage, 1st Floor Galolhu Male,
Maldives
TEL 960-322049

JOCV Ecuador Office
Robles 653 Y Av. Amazonas, Edificio Proinco
Calisto, Piso #13, Ecuador
TEL 593-2-230426, 503780, 503782, 569123

JOCV Marshall Office
1st Floor, PII Complex, Majuro Atoll, MH,
96960 Rep. of The Marshall Islands
TEL 692-6255437, 6255438

JOCV Burkina Faso Office
Hotel Amiso, 198, Avenue Mgr Thevenud,
Ouagadougou, Burkina Faso
TEL 226-330766, 330767

青年招へい事業―アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国、サウディ・アラビア―［交流レポート］(1999)
平成12年3月31日
発行　国際協力事業団国内事業部研修業務課
〒151-8558 東京都渋谷区代々木2丁目1-1
新宿マインズタワー
電話　(03)5352-5401～3
編集　㈶日本国際協力センター国際交流部
〒163-0489 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル15F
電話　(03)5322-2571

無断転載を禁じます。

JICA
Japan
International
Cooperation
Agency
国際協力事業団